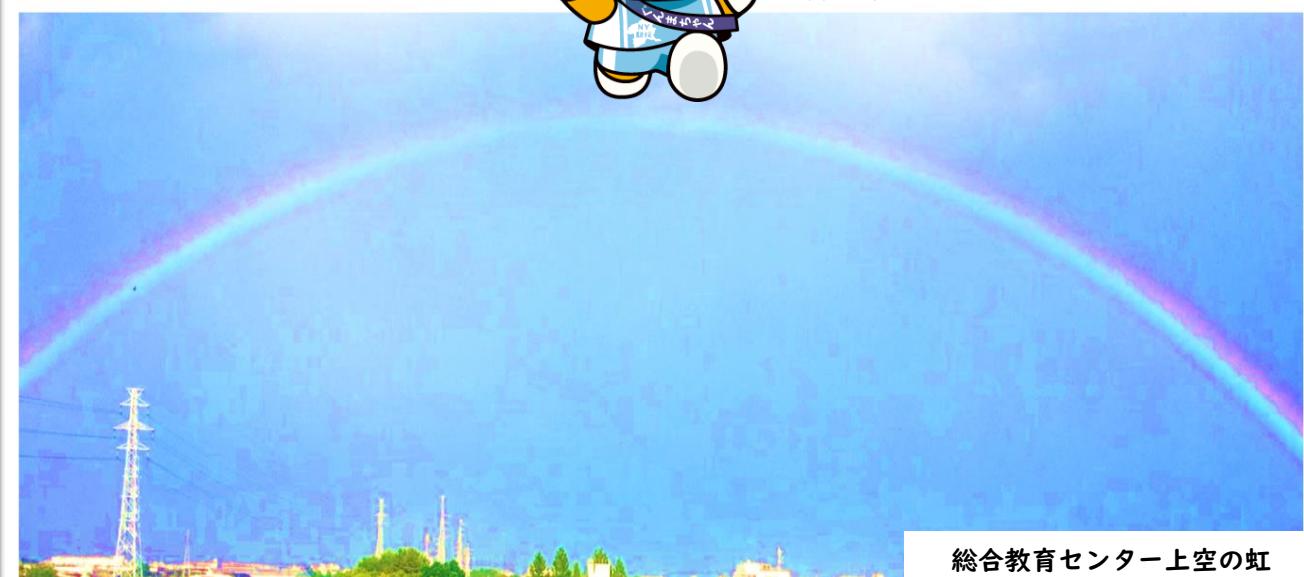


外国人児童生徒等への学習支援ガイドブック



©群馬県 ぐんまちゃん



総合教育センター上空の虹

群馬県総合教育センター

はじめに

★先生方、困っていませんか？



「ぐんぐんガイド(受け入れ編・指導編)」
も参考にしましょう！

外国人児童生徒等を受け入れ、しばらく経つけれど…



本ガイドブック
「ぐんまのかけはし」

- ・日本語中期指導プログラム
- ・外国人児童生徒等にも
分かりやすい在籍学級での指導

本ガイドブックは、以下のような先生方の思いに対して参考になる内容です。

- ✓ 日本語初期指導から在籍学級の授業につなごうと考えている。
- ✓ 日常会話はできるのに、学習になると困難を感じている児童生徒へどう支援すればよいか悩んでいる。
- ✓ 学級の外国人児童生徒等に、授業でどう支援すればよいか知りたい。



昨年度総合教育センターでは、外国人児童生徒等を初めて受け入れることになった先生のために「ぐんまのぐんぐんガイド—受入れ編・指導編—」を作成しました。受入れから日本語初期指導までの流れが分かり、受入れに必要な書類、学校生活に必要な準備、学校生活に適応するための日本語指導案などが掲載されており、すぐに活用できる内容になっています。

外国人児童生徒等を受け入れ、学校生活への適応がある程度できるようになると、次のステップに移る必要があります。日常の言葉は急速に身に付けても「学習するために必要な日本語」は、簡単に身に付くものではありません。「話す」「聞く」「読む」「書く」の言葉の力をバランスよく伸ばし、授業でよく使われる言葉を理解する必要があります。そのため本ガイドブックでは、日本語中期指導の例を紹介しています。

また、児童生徒が多くの時間を過ごす在籍学級での授業においても外国人児童生徒等への支援は必要です。外国人児童生徒等が分かりやすい授業づくり、教材づくり、ＩＣＴの活用、学級づくりの例を紹介しています。こうした外国人児童生徒等が分かりやすい授業を考えるということは、全ての児童生徒にとって分かりやすい授業を考えることにつながります。本ガイドブックを活用することで、外国人児童生徒等と日本人児童生徒が共に安心して学べることができるようになることを願っております。

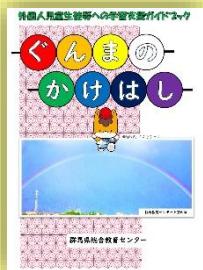


日本語指導編

個別・少人数指導で教科につながる日本語を身に付けさせることができます。

I 教科指導への架け橋

- (1) 受入れ、初期指導後の流れ…p. 5
- (2) 教科につながる日本語指導…p. 6



2 日本語中期指導（かけはしプログラム）

- (1) プログラムの特徴 …p. 7
- (2) プログラム一覧表 …p. 9
- (3) プログラム授業案 …p. 11



かけはしプログラム
イントロダクション動画



3 日本語と教科の統合学習

- (1) JSL（日本語と教科の統合学習） …p. 27
- (2) 個別の指導計画 …p. 31
- (3) DLA（外国人児童生徒のための
JSL対話型アセスメント） …p. 32



将来へのビジョン

- (1) キャリア教育…p. 56
- (2) 永住・定住をめざして…p. 57

在籍学級での指導編

一斉指導で外国人児童生徒等にも分かりやすい授業にすることがねらいです。

4 授業・教材づくり

- (1) 「やさしい日本語」の視点 …p. 33
- (2) 「特別支援教育」の視点 …p. 35
- (3) 「JSL」の視点 …p. 39

やさしい指示・発問

① 短文・単文にする
(1主語、1述語の原則)

教科書を出して12ページの問題をグループで読みながらノートに写します。

教科書を出します。
12ページを開きます。
問題をグループで読みます。
ノートに書きます。

5 ICTの活用

- (1) 音声検索機能 …p. 43
- (2) カメラ機能 …p. 45
- (3) 文字読み上げ、文字起こし機能 …p. 45
- (4) デジタルホワイトボード …p. 49
- (5) 学習支援サイト …p. 49
- (6) 今後のICT活用 …p. 50

○まとめ

外国人児童生徒等にとって、便利なICT機能

- 音声検索機能
- カメラ機能
- 文字読み上げ機能
- 文字起こし機能
- デジタルホワイトボード（考えの可視化・共有）
- 学習支援サイト

6 学級づくり

- (1) 日常生活での多文化共生 …p. 51
- (2) エンカウンターでの多文化共生 …p. 52
- (3) 特別活動・総合的な学習の時間・各教科での多文化共生 …p. 53

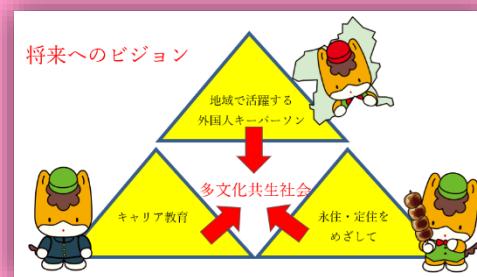
日常生活で配慮すること 受け入れ初期の配

座席位置

教卓に近い前から2列目くらいがよいでしょう。先生のサポートが受けやすく、周りの友達の様子も見られます。

また、学級全員の名前を書いた座席表を渡しておくと友達の名前を早くおぼえやすくなるでしょう。

- (3) 地域で活躍する外国人キーパーソン…p. 58

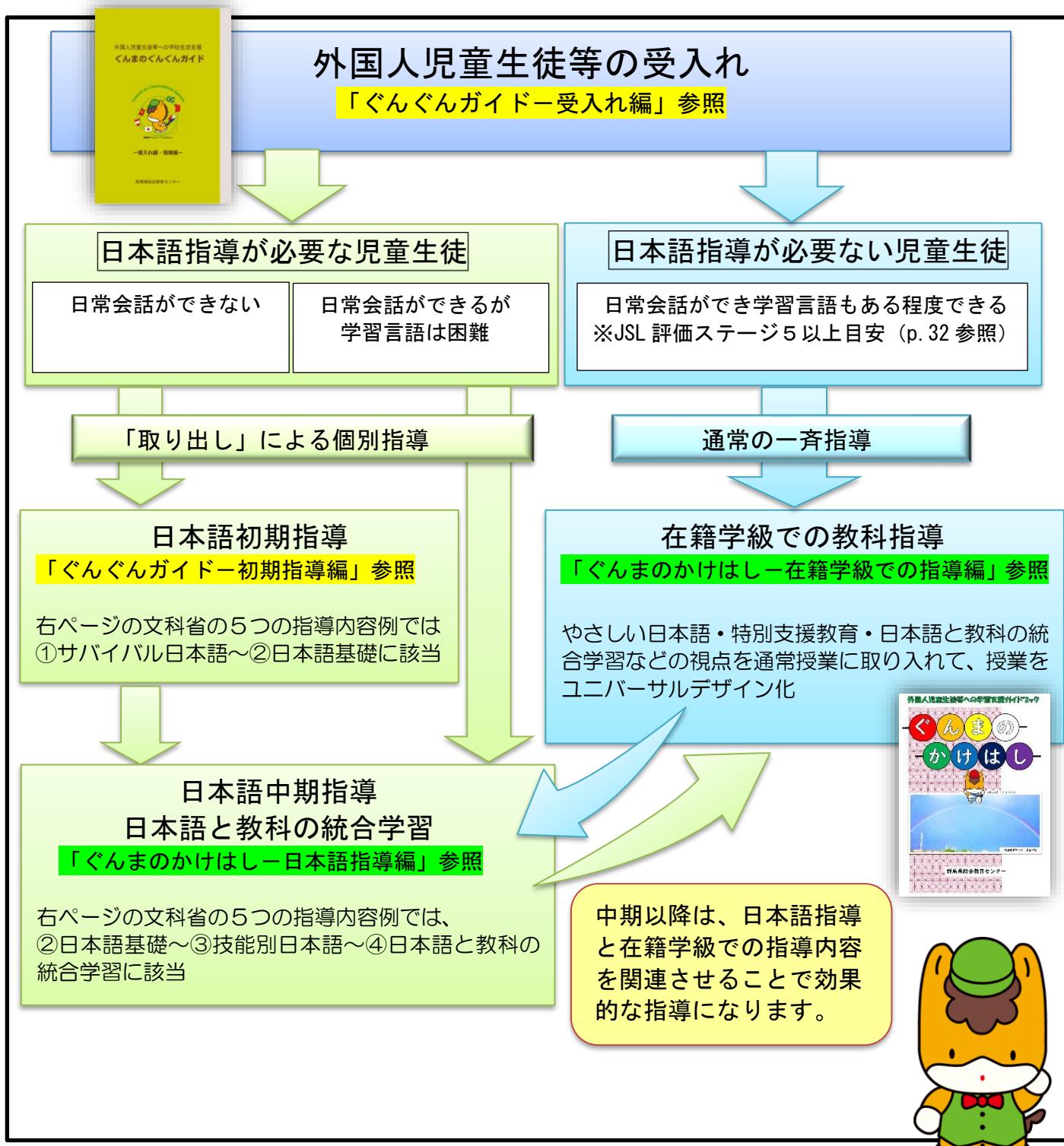


1 教科指導への架け橋

(1) 受入れ、初期指導後の流れ

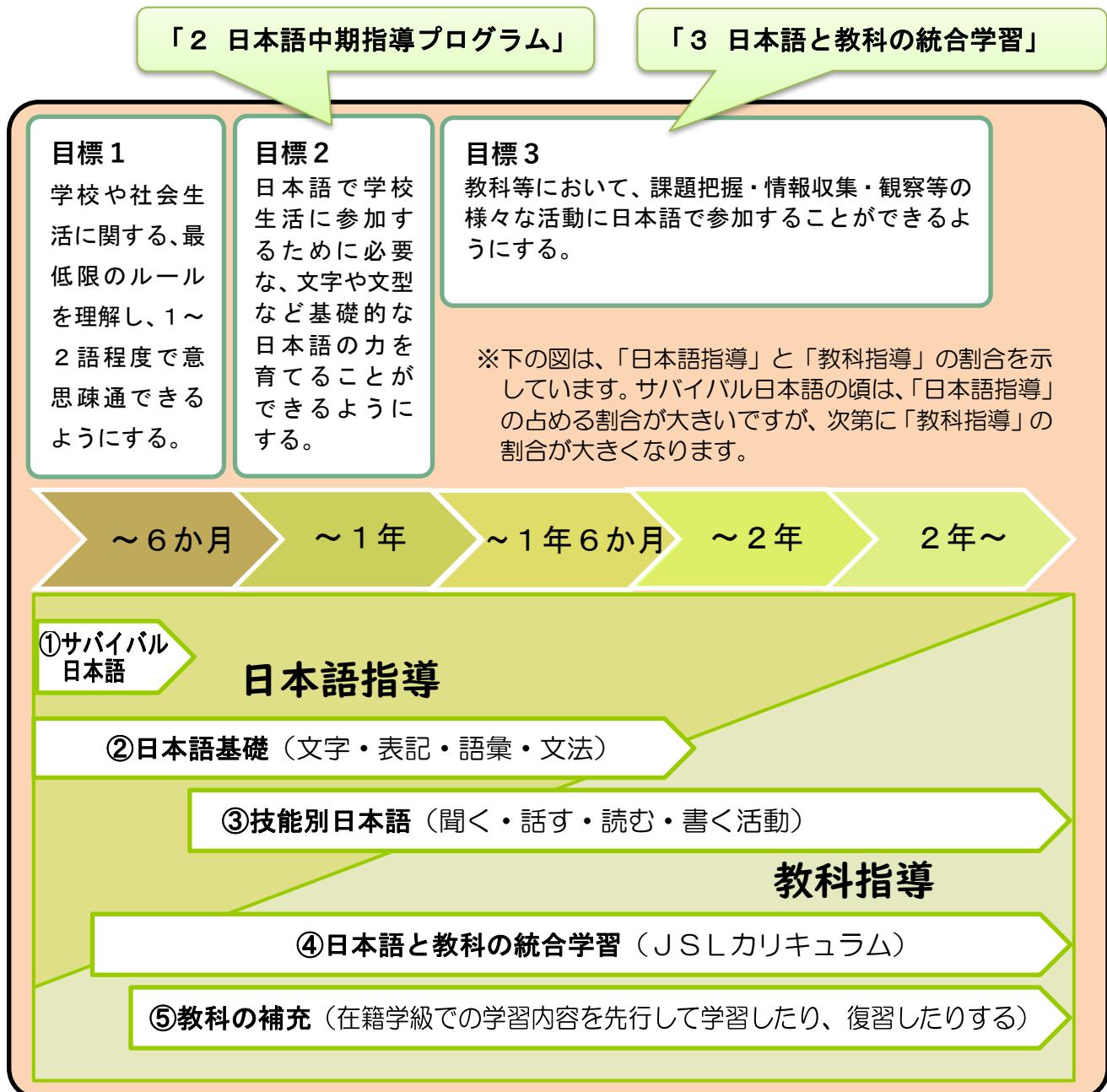
外国人児童生徒等の受入れ・日本語初期指導から中期指導・教科指導への流れを示しました。また「ぐんぐんガイド」と「ぐんまのかけはし」を活用する場面も示しました。

日常生活に最低限必要な日本語初期指導を終えたら、日本語と教科の学習を関連させた指導を行うことがポイントです。この図は、あくまで参考ですので、学校や児童生徒の実態に応じて進めましょう。



(2) 教科につながる日本語指導

「2 日本語中期指導プログラム」「3 日本語と教科の統合学習」の目標と内容の図です。図中の年数はあくまで参考ですので、教科学習の空白期間を作らないようになるべく早く日本語指導から教科指導の内容に移っていくことが望ましいです。



※前ページと上記の図は、文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議(平成25年3月) 日本語指導が必要な児童生徒に対する『特別の教育課程』の在り方等について」を参考に作成しました。

※文部科学省では、教職員向けの「外国人児童生徒等の教育のための動画コンテンツ」を YouTube 文部科学省公式チャンネルで公開しています。外国人児童生徒等の受入れから上記の5つの日本語指導の方法などを動画でわかりやすく解説しています。
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003_00004.htm

2 日本語中期指導（かけはしプログラム）

(1) プログラムの特徴

中期指導プログラムも初期指導プログラムと同様に
「取り出し（個別・少人数）」指導が基本です。



対象とする児童生徒は？

- ・初期指導を終えた児童生徒
- ・日常会話はできるが、教科の学習は難しい児童生徒
- ・低、中学年の教科と関連していますが、高学年や中学生でも活用可能

だれが教えるの？

日本語教室がある学校では

日本語指導担当の先生
日本語指導支援員・母語支援員
(市町村から派遣される場合)
など

日本語教室がない学校では

学級担任
担任外の先生
教務主任
管理職
など

いつ教えるの？

1 5分×3のモジュール指導ができます。

取り出し指導をする時間がある場合は、45分（中学校50分）で行います。時間がない場合は、モジュール指導ができるようになっているので、朝学習や昼学習、給食準備などの短い時間を利用して行うこともできます。
その際、学級担任だけに負担がかからないように、他の先生と協働して指導するように計画を立てましょう。

プログラムの順番どおりに教える必要はありません。
プログラムを参考に児童生徒や学校の実態に応じて計画を立ててください。

授業のポイントは？

活動場面の動画(1~2分)を
二次元コードで読み取れるようになっています。授業の進め方が短時間で分かるので、児童生徒に見せてもよいでしょう。

日本語指導と国語・算数・生活科とを関連させた題材を選んでいます。教科の予習や復習としても使えます。

教室でよく使われる指示・発問を取り入れています。
JSLカリキュラムのAU(p.27 参照)を参考にしています。

1モジュール
15分で行なうことができます。

話す・聞く・
読む・書く力をバランスよく
高めることができます。

買い物をしよう



教科との関連

算数・生活

よく使う日本語

いくつ(何こ／何本／何まい)？【数】
～をえらびました。～だからです。【理由】

基本的な流れ

- 1 絵カードを使って買い物ごっこをする。
(聞く・話す活動)



絵カードの表

りんご
100円

ソフト
クリーム
200円

ラーメン
550円

絵カードの裏

- 2 絵カードに自分のほしい物を書く。
(書く活動)



絵カードの表

本
100円

くつ
800円

ケーキ
320円

絵カードの裏

- 3 自分で作った絵カードも使って買い物ごっこをする。
(読む・話す活動)



100

10



指導のポイント

○はじめは、先生が店員、児童が客の役をする。

T: 「りんごは、いくつ欲しいですか？」

S: 「3つです。」

T: 「合わせて、いくらですか？」

S: 「300円です。」

T: 「おつりは、いくらですか？」

※高学年以上は、

・絵カードにこだわらず、スーパーのチラシなどをを使った買い物にする。

・かけ算やわり算を使って値段を出す問題にする。(1個あたりの値段を出すなど)

※実態に応じて買い物に条件をつけた聞き方もある。

「りんごが5つだったら、どうでしょう。」

「りんごが50円なら、どうでしょう。」

○表に自分がほしい物の絵、裏に文字・値段を書かせる。

T: 「何をえらびましたか？」

S: 「本をえらびました。」

T: 「どうして本をえらびましたか？」

S: 「本を読むことが好きだからです。」

※高学年以上は、

・家庭科の学習と関連させ、おこづかいの適切な使い方や調理の材料としての買い物を考えさせる。

・「どうして」「なぜ」の質問に「なぜなら」「理由は」などと答えさせる。

○1と同じ活動をする。店員と客の役を交代してもよい。

「合わせて、いくらですか？」

「おつりは、いくらですか？」

「～と～をえらびました。」

「～だからです。」

更に発展させるなら、お金カードを使って、お金のやりとりを体験するとよいでしょう。「おこづかい1000円をもって、買い物に行きましょう。何を選びますか？」など実態に応じて買い物ごっこを楽しめます。

特別支援教育デザイン研究会 (<http://sn1.e-kokoro.ne.jp/>) よりダウンロードしました。

「高学年以上は」の欄を設け、児童の実態に応じて活用できます。

更に発展させるためのヒントや留意点を取り入れています。

図や写真、すぐに活用できる教材のリンクを取り入れています。

文型や文字の繰り返し練習ではなく、具体物を使った日常活動中心で楽しみながら取り組める内容になっています。活動と言葉がつながると、児童生徒にとって意味のある言葉となり習得も早くなります。

指導する際には、発音や文字の細かい間違いを指摘するのではなく、児童生徒が新しくできたことを認めていきましょう。



←かけはしプログラム



イントロダクション動画

(2) プログラム一覧表

※順番どおりに行う必要はありません。

日本語の習得状況と教科の習得状況をチェックして、在籍学級での指導につなげましょう。

授業名	教科との関連	指導事項「主なチェック事項」	習得状況	日付
おもちゃを作ろう	…p. 11 国語「順序よく作文」 生活「おもちゃ」	<p>①先生のおもちゃの作り方を見たり聞いたりして作る おもちゃの作り方を聞いて作る（1・2年生活）</p> <p>②自分でおもちゃを作り、作り方を話す 「初めに、次に、最後に」「何をどうする」</p> <p>③自分で作ったおもちゃの作り方を書く 「初めに、次に、最後に」などを使って順序よく文を書く（1・2年国語）</p>		
観察をしよう	…p. 12 国語「作文・日記・観察文」 生活「植物・野菜の観察」	<p>①先生のシルエットクイズの問題を聞いて答える 「形は、色は、大きさは」「たぶん～だと思います」</p> <p>②自分でシルエットクイズの問題を出す 「形は、色は、大きさは」「これは何でしょう」</p> <p>③シルエットクイズの言葉を活かして観察文を書く 「形、色、大きさ」など観察の視点にそって観察文を書く（1・2年国語・生活）</p>		
道案内をしよう	…p. 13 国語「道案内」 生活「町探検」	<p>①先生の指示を聞いて宝探しゲームをする 「見つけましょう」「～の前（後/右/左/中/上/下）」</p> <p>②自分で指示を話して宝探しゲームをする 「～の前（後/右/左/中/上/下）にあります」</p> <p>③地図を使って道案内ゲームをする 町の施設や前後左右など方向を示す言葉で道案内をする（1・2年国語・生活）</p>		
季節を感じよう	…p. 14 国語「日記」 生活「季節のもの」	<p>①夏の食べ物、動植物、行事などを話す 夏に関するものを話す（1・2年生活）</p> <p>②「夏」連想ゲームを行う 「～を知っていますか」</p> <p>③「夏」に楽しみなことを絵と文で書く 「～が楽しめます。～だからです。」を使って文を書く（1・2年国語）</p>		
漢字に親しもう	…p. 15 国語「漢字・漢字の成立」	<p>①漢字えほんの読み聞かせを聞く 1・2年生の漢字を知る（1・2年国語）</p> <p>②漢字クイズに答える 「何だと思いますか？」「たぶん～だと思います」</p> <p>③漢字クイズを作る 漢字を調べてクイズを作る（1・2年国語）</p>		
お話を作ろう	…p. 16 国語「作文」 生活「絵日記」	<p>①話を聞きながら、話の順番に絵を並びかえる 「誰が、～しました」「何が、～なりました」</p> <p>②並べかえた絵を見ながら文を書く 「誰が、～しました」「何が、～なりました」</p> <p>③自分のことを話したり、書いたりする 「私は～しました。～と思いました。」を使って文を作る（1・2年国語・生活）</p>		
ソーシャルスキルを高めよう	…p. 17 国語「ていねい語」 生活「学校探検」	<p>①職員室に物を借りに行く時の言い方を練習する 「失礼します」「〇〇です」「〇〇を貸してください」</p> <p>②物を貸したり借りたりする時の言い方を練習する 「〇〇を貸して」「ありがとうございます」「どうぞ」</p> <p>③自分の気持ち伝える言い方を練習する 「悲しい気持ちです」「うれしい気持ちです」</p>		

動物と触れ合おう …p. 18 国語「紹介文」「観察文」 生活「動物とのふれ合い」  	①動物の世話を調べる 「～したことがありますか」「～を知っていますか」 ②動物の世話をする 動物の世話をして触れ合う（1・2年生活） ③動物クイズを作る 世話をした動物のクイズを作る（1・2年国語）	
家族を紹介しよう …p. 19 国語「紹介文・手紙文」 生活「家の役割」  	①絵カードを使って、家族について話す 「～は、誰です」「～は、何です」 ②絵カードと文字カードでマッチングゲームをする 「誰は、どこにいます」「誰は、どんなです」 ③家族の紹介文や手紙文を書く 「～は、～です」を使って文や手紙を書く（1・2年国語・生活）	
買い物をしよう …p. 20 算数「たし算ひき算」 生活「お店屋さん」  	①絵カードを使って買い物ごっこをする 「いくつ（何個／何本／何枚）ですか？」 ②自分の欲しい物と理由を書いたり話したりする 「～選びました」「～だからです」 ③自分で書いた絵カードも使って買い物ごっこをする 1000までのたし算・ひき算をする（2年算数）	
筆算をしよう …p. 21 算数「筆算」  	①的当てゲームを楽しむ 「いくつ」「合わせていくつ」「あといくつ」 ②玉入れゲームを楽しむ 「いくつ」「合わせていくつ」「どちらが多い」 ③玉入れの得点を筆算で答える くり上がり・くり下がりの筆算をする（2年算数）	
かけ算九九で数えよう …p. 22 算数「かけ算」 生活「おもちゃ」  	①ゲームを楽しむ 「～するためには、どうしたらいいでしょう」 ②ゲームのコマをかけ算九九を使って数える かけ算の意味を理解する（2年算数） ③かけ算九九ゲームを行う かけ算九九を身に付ける（2年算数）	
時間を知ろう …p. 23 算数「時刻と時間」 生活「一日の生活」  	①ストップウォッチを見ずに、10秒を計る 「何秒・何分です」 ②一日の生活の絵カードを並べ時刻について考える 時刻を言う（1・2年算数・生活） ③絵カードや時計すごろくで時間について考える 時間を言う（1・2年算数）	
伝言をしよう …p. 24 算数「図形」 国語「聞き方」  	①先生の伝言を聞いて形を作るゲームをする 正方形・長方形・三角形などを理解する（2年算数） ②伝言ゲームをする 「どんなことを聞いたか話してください」 ③人や物の特徴を聞いたり話したりする 特徴を聞いたり話したりする（1・2年国語）	
料理をしよう …p. 25 算数「重さ・かさ・分数」 国語「順序よく作文」  	①ホットケーキの作り方を聞いて材料を混ぜる 「～のようになりました」「～に注意します」 ②ホットケーキを焼く ½や¼など簡単な分数を理解する（2年算数） ③ホットケーキの作り方を書く 「まず、次に、それから」など順序を表す言葉を使って文を書く（1・2年国語）	

おもちゃを作ろう



※以下、授業案中の「よく使う日本語」は、小学校
1・2年生で学習する漢字で表記してしています。

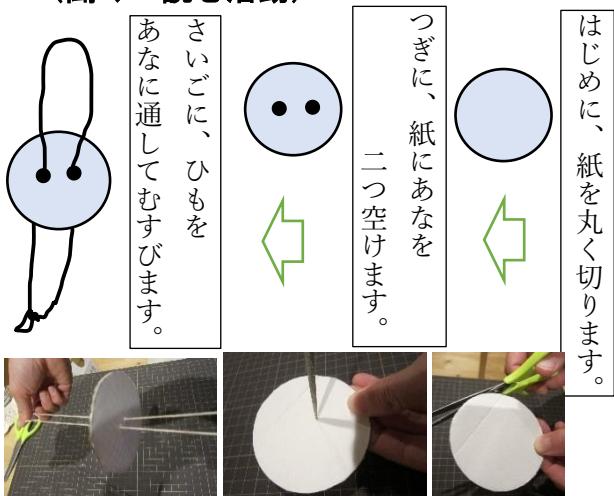
よく使う日本語

何をどうします。【動作】

はじめに～、つぎに～、さいごに～ 【順序】

基本的な流れ

- 1 先生のおもちゃ（ブンブンごま）の作り方を見たり聞いたりして作る。
(聞く・読む活動)



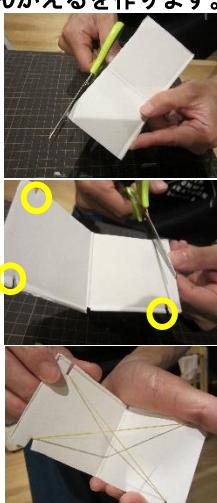
- 2 自分でおもちゃを作り、作り方を話す。
(話す活動)

ここでは例として、ぴょんぴょんかえるを作ります。

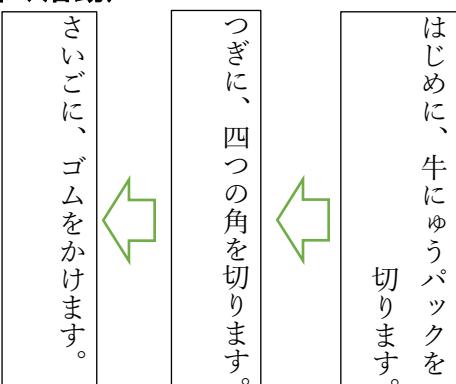
「はじめに、牛乳パックを切ります。」

「つぎに、4つの角を切ります。」

「さいごに、ゴムをかけます。」



- 3 自分で作ったおもちゃの作り方を書く。
(書く活動)



指導のポイント

○厚紙・ひも・はさみ・きりを用意する。

T: 「はじめに、紙を丸く切ります。」

T: 「つぎに、紙に穴を2つ空けます。」

T: 「さいごに、ひもを穴に通して結びます。」

○説明は短冊に書いておくと、文を読む力と書く力につながる。

※高学年以上は、

・半径5cmの円、2つの穴の間は1cm、
ひもの長さは60cmなどと算数用語を使って説明する。

※四角形や長方形のこまも用意して質問してみる。

「円じゃなくて四角形だったら、どうでしょう。」

「どうすればもっとたくさん回るでしょう。」

○作るおもちゃは、生活科の教科書などを参考にする。
簡単なものでよい。作り方の動画を見せるとよい。



例として、ぴょんぴょんかえる、紙ひこうき、ストローひこうき、牛乳パックこま、紙コップけんだま、紙皿フリスビーなどがあります。

T: 「何を作りますか？」

S: 「ぴょんぴょんかえるを作ります。」

T: 「はじめに、(つぎに、さいごに、)何をしますか？」

S: 「はじめに、牛乳パックを切れます。」

S: 「つぎに、4つの角を切れます。」

S: 「さいごに、ゴムをかけます。」

○短冊やワークシートにおもちゃの作り方を友達に分かるように順序よく書く。児童が作る様子を写真に撮っておくと、文を書きやすい。

※手順が多い場合「それから」「こんどは」も使う。

※おもちゃを2つ以上作って「どちらが早く動く、高く、遠くとぶ」などという日本語も使える。

※高学年以上は、

- ・材料や準備するもの
 - ・作り方とその絵、写真
 - ・遊び方
- なども加えて、段落も意識した作文形式で書かせる。



よく使う日本語

**形は、色は、大きさは、おもさは、さわると、【観察】
たぶん～だと思います。【予想】**

基本的な流れ	指導のポイント						
<p>1 先生がシルエットクイズの問題を出し、児童が答える。（聞く・話す活動）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>前から見たシルエット</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>後ろから見たシルエット</p> </div> </div>	<p>○先生が懐中電灯でシルエット（影絵）を白い紙に映し、ヒントを出す。シルエットを用意できなければ、段ボールの中に物を入れるだけでもできる。</p> <p>T: 「これは何でしょう？」 T: 「形は、丸いです。」 T: 「色は、赤です。」 T: 「大きさは、手くらいです。」 T: 「食べると、あまっっぱいです。」 S: 「りんごだと思います。」</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※高学年以上は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物でなく、それを型どったペーパーサートになると、いろいろな物が提示できる。 (例えば、犬、車、飛行機など) ・児童に質問をさせてヒントを出す。「どんな形ですか？」「どのくらいの大きさですか？」「いつ・どこで使いますか？」など </div>						
<p>2 児童がシルエットクイズの問題を出し、先生が答える。（聞く・話す活動）</p> <p>※教室にある物などを先生に見せないようにして、シルエットを映す。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>	<p>○1の活動の役割を交代する。児童が自分でヒントを言うことが難しければ、次のように先生の質問に「はい」か「いいえ」で答えさせるのでもよい。</p> <p>T: 「食べられますか？」 S: 「いいえ、食べられません。」 T: 「どんな形ですか？」 S: 「とがっています。」 T: 「いつ使いますか？」 S: 「算数で使います。」</p> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※高学年以上は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分でヒントを考えて言う。 ・ヒントは具体的な数で答えさせる。 (大きさは○cm、重さは○gくらい) </div>						
<p>3 シルエットクイズの言葉を活かして、植物や動物の観察を書く。（書く活動）</p> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; text-align: center;"> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 大きさは、 ～ ～ ～ </td> <td style="vertical-align: top;"> 色は、 ～ ～ ～ </td> <td style="vertical-align: top;"> 形は、 ～ ～ ～ </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> くらいです。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ～ ～ ～ </td> <td style="vertical-align: top;"> ～ ～ ～ </td> </tr> </table> </div> </div>	大きさは、 ～ ～ ～	色は、 ～ ～ ～	形は、 ～ ～ ～	くらいです。	～ ～ ～	～ ～ ～	<p>○生活科で育てている、アサガオやミニトマトなど実物があるものが書きやすい。実物を見てから写真をとって書かせると、じっくりと観察して書くことができる。</p> <p>○観察を書く時によく使う語彙をいくつか用意しておくとヒントになる。</p> <div style="border: 1px solid yellow; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>観察を書く場面は、国語科の作文や日記、生活科、理科などたくさんあります。児童の実態や在籍学級での授業に応じて形式を変え、繰り返し取り組むとよいでしょう。観察の視点は、最初は先生が与えてもよいですが、児童オリジナルの視点が少しずつ出てきて、表現豊かに書けるとさらによいでしょう。</p> </div>
大きさは、 ～ ～ ～	色は、 ～ ～ ～	形は、 ～ ～ ～					
くらいです。	～ ～ ～	～ ～ ～					



よく使う日本語

～ものを見つけ（さがし）ましょう。【指示】
～の前（後ろ、右、左、中、上、下）にあります。【位置】

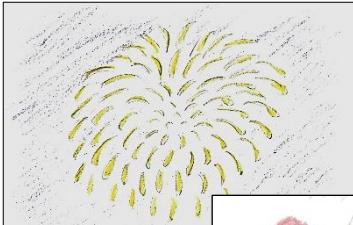
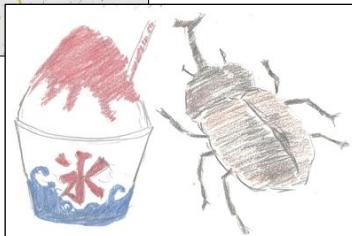
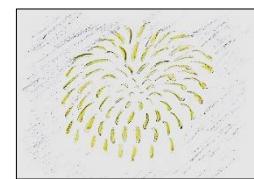
基本的な流れ	指導のポイント
<p>1 宝探しゲームをする。宝のある場所の指示を聞いたり、読んだりして見付ける。 (聞く・読む活動)</p> <p>↑指示を言葉で言う パターン</p> <p>指示を紙に書く パターン →</p>	<p>○先生が宝物（何でもよい）を教室のどこかにかくす。児童はその間、ろうかで待っている。</p> <p>T: 「先生の宝物をどこかにかくしました。 言う通りに動いて見つけましょう。」</p> <p>T: 「前に3歩、右に2歩歩きます。ノートの 下にあります。」</p> <p>S: 「見つけました。」</p> <p> 読む力を高めるために 指示を紙に文で書いて児童にわたします。 「花びんの下にあります。」 児童が花びんの下を見ると別の紙が置いてあり、 「教室の後ろのロッカーの中にあります。」など 次々に指示を探していくと、楽しく取り組めるで しょう。</p>
<p>2 宝のある場所の指示を話したり、書いたりする。（話す・書く活動）</p> <p>↑前に5歩、左に3歩歩きます。</p>	<p>○1の活動の役割を交代する。児童が宝物をかくして指示を出し、先生が見付ける。指示を出すのが難しい場合は、先生が質問をしていく形で進めてよい。</p> <p>S: 「前に5歩、左に3歩歩きます。」</p> <p>T: 「机の中になりますか？ バックの中になりますか？」</p> <p>S: 「机の中になります。」</p> <p>※高学年以上は、 ・指示を文で書かせる。1回で見付けるには、どうい う指示を書けばよいか考えさせる。</p>
<p>3 学校の周りの地図を使って、道案内ゲームをする。宝探しで使った言葉をいかして行う。（聞く・話す活動）</p>	<p>○学校周囲の地図は、2年生活科「町探検」や3年社会科で使う絵地図を使うとよい。もしなければ、先生が書いた絵地図や町の施設の絵カードを黒板にはるだけでもできる。右・左は向きによって変わるので、右・左と書かれた消しゴムを進めながら行うとよい。</p> <p>T: 「学校とデパートの間の道を歩きます。 郵便局を通り過ぎて左に曲がります。 右にある建物は何ですか？」</p> <p>S: 「病院です。」</p> <p>○慣れてきたら、役割を交代する。</p> <p>※高学年以上は、 ・地図記号や東西南北、縮尺の入った地図を使う。 ・「東に100m進みます。元（郵便局）を西に曲がって50m進みます。」など社会の学習と関連させる。</p>



よく使う日本語

～を知っていますか？【確認】

ジェスチャーでやってください。【指示】～が楽しみです。～だからです。【理由】

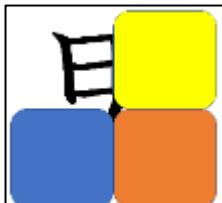
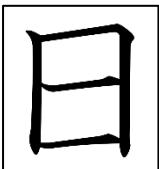
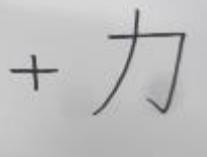
基本的な流れ	指導のポイント
<p>1 夏の食べ物、植物、行事などを児童が知っているものを話す。あまり知らなければ、先生が教科書・絵本・PCなどで紹介する。(聞く・話す活動)</p> <div style="display: flex; align-items: center;">   </div>	<p>○まずは児童から自由に発言させる。母國のものでもよい。難しければ先生が国語科や生活科の教科書、絵本などで紹介してもよい。知らないものはPCで画像・動画検索して見せるとよい。</p> <p>T: 「夏の食べ物を知っていますか？」 S: 「アイス、すいか、とうもろこしなどです。」 T: 「夏の植物・動物を知っていますか？」 S: 「ひまわり、かぶと虫、くわがた虫などです。」 T: 「夏の行事を知っていますか？」 S: 「お祭り、花火、水泳などです。」</p> <div style="background-color: #e0f2e0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※高学年以上は、 ・これは何でしょう？とクイズ形式で紹介する。</p> </div>
<p>2 「夏」連想ゲームを行う。 (聞く・話す活動)</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">アイス</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">花 火</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">くわがた虫</div> </div> <p>フラッシュカードのようにしておくとよい</p>	<p>○夏に関するもののヒントを先生が次々に出す。ジェスチャーや音などもヒントになる。児童は、それが何かをできるだけ早く当てる。ヒントは実態に応じて出す。</p> <p>T: 「虫です。黒です。はさみがあります。 最初の文字は『く』です。」 S: 「くわがた虫です。」 T: 「空にヒュ～ドーンと上がります。」 S: 「花火です。」</p> <div style="background-color: #ffffcc; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p> ポイント 3分間でいくつ当たるかなど競わせるとゲーム性が出て楽しめますが、分からなければパスを認めるなど無理なく進めましょう。 児童がヒントを出せそうなら、先生と役割交代してやってみるとよいでしょう。</p> </div>
<p>3 「夏」に楽しみなことを絵と文で書く。 (書く活動)</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>夏にたのしみなことは、 ～花火～です。 はじめて見るからです。</p> </div> </div>	<p>○季節の言葉を知り、使うことができるようにするための活動である。夏休みの宿題などの絵日記につなげるようにもよい。</p> <p>T: 「夏の楽しみなことは何ですか？」 S: 「花火です。初めて見るからです。」</p> <div style="background-color: #e0f2e0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※高学年以上は、 ・国語の学習と関連させて、俳句や短歌、詩などを書く。</p> </div>

同様の授業を「春、秋、冬」でも行うことができる。季節の節目で行うと国語科、生活科と関連することができます。



よく使う日本語

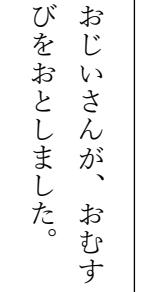
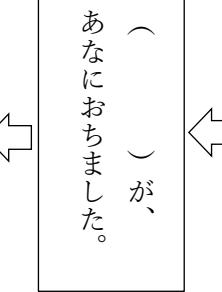
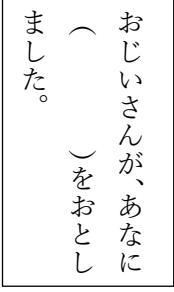
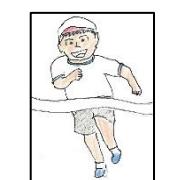
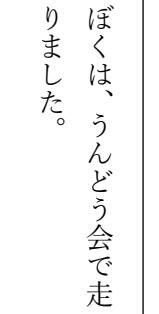
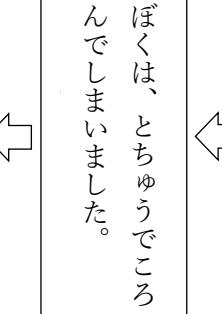
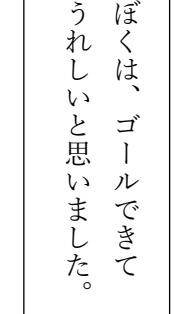
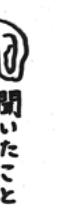
何だと思いますか？【質問】
たぶん～だと思います。【予想】

基本的な流れ	指導のポイント
<p>1 「漢字えほん」の読み聞かせを聞く。 (聞く・話す活動)</p> <p> </p> <p>「漢字えほん」とだ こうしろう著 戸田デザイン研究室 これらの絵本には1・2年生の漢字が出てくる。</p> <p>「漢字えほん」わらべ きみか著 ひさかたチャイルド わらべこどものきみか</p>	<p>○漢字に興味をもたせるための読み聞かせである。絵本は実態に応じて選ぶ。クイズ形式にして、問題を出しながら読んでもよい。一度に全部読まなくて、少しづつ読むのでよい。</p> <p>T: 「何の漢字だと思います。」 S: 「馬だと思います。」 </p> <p>※高学年以上は、 ・象形文字（物の形からできている漢字）が視覚的に分かりやすいが、指示文字・介意文字・形声文字の漢字が増えてきて難易度が上がる所以、実態に応じて提示する。</p>
<p>2 漢字クイズに答える。 (話す活動)</p> <p> </p> <p>少しずつめくっていくのも楽しい</p> <p> + </p>	<p>○漢字の「へん」、「つくり」、「かんむり」、「あし」だけを見せて何の漢字かを考えさせる。漢字カードを使ってもいいし、手書きのカードでもよい。パソコンの画面でもできる。</p> <p>T: 「何の漢字だと思います。」 S: 「林だと思います。」</p> <p>T: 「他には何の漢字だと思います。」 S: 「村だと思います。」</p> <p>別のパターンとして、 「日」+「月」は？ 「一」+「大」は？ など、2つの部分に分けられる漢字をクイズ形式で出すと、カルタのように楽しんで考えられるでしょう。</p>
<p>3 漢字クイズを考えて問題を出す。 (書く活動)</p> <p> </p> <p> + </p>	<p>○2と同じ活動を児童が問題を作り友達や先生に出す。漢字一覧表や漢字辞典を見ながら作るとよい。</p> <p>S: 「何の漢字だと思います。」</p> <p>T: 「目かな？白かな？百かな？」</p> <p>S: 「田+力は何の漢字だと思います。」</p> <p>※高学年以上は、 ・「へん」や「つくり」という言葉を教える。「へん」や「つくり」が同じ漢字がわかつてくると、効率よく漢字の定着につながる。 ・ちびむす小学生漢字クイズ問題プリント https://happyiliao.net/kanjiQ.html を解いてよい。</p>



よく使う日本語

**だれが、どうします。何が、どうします。【動作】
～と思います。～とかんじます。【感想】**

基本的な流れ	指導のポイント
<p>1 先生が読む話を聞きながら、話の順番に絵を並び替える。(聞く・読む活動)</p> <p>※ここでは「おむすびころりん」を読む。</p> <p style="text-align: center;">(3) (2) (1) </p> <p style="text-align: center;">(6) (5) (4) </p>	<p>○教科書に載っている物語の挿絵を用意しておく。パソコンで行ってもよい。</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">T: 「話の順に絵を並べかえましょう。」</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">T: 「だれが、どうしましたか？」</p> <p>S: 「おじいさんが、おむすびを落としました。」</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">T: 「何が、どうなりましたか？」</p> <p>S: 「おむすびが、穴に落ちました。」</p> <p style="border: 1px solid yellow; padding: 10px;"> ▶さらに他の話で取り組むなら、「だれが、どうする」が分かりやすく、短い話から始めるといいでしょう。教科書に出てくる「おおきなかぶ」「かさこじぞう」「くじらぐも」などでもいいですし、「花さかじいさん」「いなばの白うさぎ」「さんまいのおふだ」などの昔話でもよいでしょう。 </p>
<p>2 並べ替えた絵を見ながら文を書く。 (書く活動)</p> <p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;">(1) (2) (3) </p>	<p>○並べ替えた絵に合わせ「誰がどうする。」「何がどうなる。」の文を書かせる。実態に応じて、穴埋め文にしてもよい。</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">T: 「だれが、どうしましたか？」</p> <p>S: 「おじいさんが、おむすびを落としました。」</p> <p style="color: red; font-weight: bold;">T: 「何が、穴に落ちましたか？」</p> <p>S: 「おむすびが、穴に落ちました。」</p> <p style="background-color: #e0f2e0; padding: 10px;"> ▶※高学年以上は、 - 話の感想を聞いて書かせる。思ったことや感じたことを書かせる。感想の語彙を用意しておくとよい。 - 物語文ではなく、説明文でも同じような活動をする。 </p>
<p>3 自分のことを話したり、書いたりする。 (話す・書く活動)</p> <p style="text-align: center;"></p> <p style="text-align: center;">(1) (2) (3) </p>	<p>○事前に撮った児童自身の日常の写真を並べ替えながら、まず口頭で話をさせる。学校行事の写真などでもよい。可能であれば絵日記や作文につなげていく。</p> <p style="text-align: right; background-color: #e0f2e0; padding: 10px;"> ▶※高学年以上は、 - だれが、どうするという「したこと」だけではなく、「見たこと」「聞いたこと」「話したこと」「思ったこと」などの視点を与えて話したり、書かせたりする。 </p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;">  思ったこと  話したこと  聞いたこと  見たこと </div>

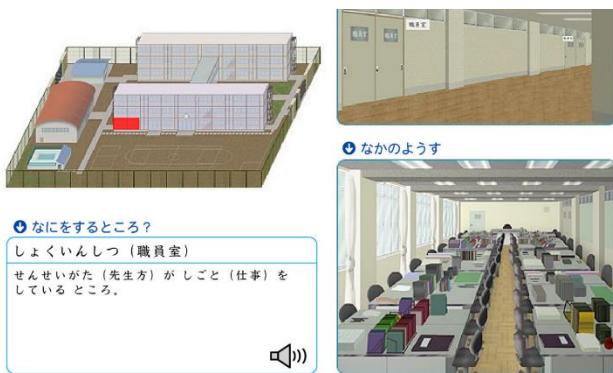


よく使う日本語

～してください。ありがとうございます。【丁寧語】
～なら、どんな気もちですか？【感想】

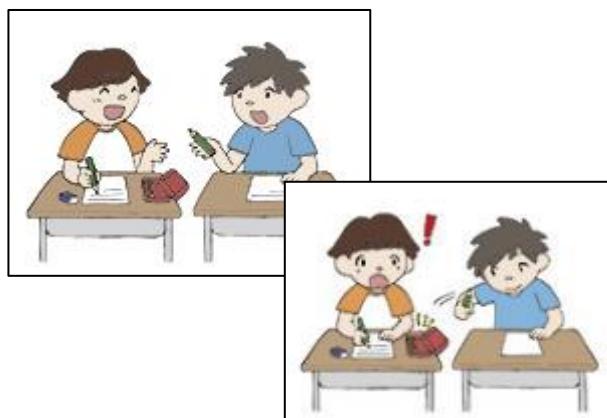
基本的な流れ

- 1 職員室に物を借りに行くスキルを練習して、実際に借りに行く。
(聞く・話す活動)



「こどもの日本語ライブラリ」学校の施設紹介

- 2 友達に物を借りる・貸す・断るスキルを練習する。(聞く・話す活動)



- 3 自分の気持ちを伝えるスキルを練習する。(聞く・話す活動)



指導のポイント

○生活科の学校探検と関連させることができる。先生に対するていねい語の練習としてもよい。職員室にいる先生に借りに行く話を事前にしておく。

T: 「職員室にペンを借りに行きます。」

T: 「何と言えばよいですか？」

S: 「失礼します。」

S: 「〇年〇組の〇〇です。」

S: 「ペンを貸してください。」

S: 「ありがとうございます。」

S: 「失礼しました。」

 職員室入室のルールは、各学校のルールに合わせて練習しましょう。他に鍵を借りる時や〇〇先生に用がある時など場面を変えてみましょう。

○友達とのやりとりの場面を練習する。

T: 「友達にペンを借りる時は、何と言えばよいですか？」

S: 「ペンを貸して。」「ペンを貸してくれる？」

T: 「友達にペンを貸す時は、何と言えばよいですか？」

S: 「いいよ。どうぞ。」

T: 「友達にペンを貸せない時は、何と言えばよいですか？」

S: 「ごめんなさい。貸せない。大切なペンだから。」

※「だめ！やだ！」と言ったり、黙っているだけだったりでは、相手がどういう気持ちになるかを考えさせる。

○言葉で自分の気持ちを伝える支援として、絵カードを使う。

T: 「だまってペンを使わいたら、どんな気もちですか？」

S: 「悲しい気もちです。」

T: 「ありがとうと言われたら、どんな気もちですか？」

S: 「うれしい気もちです。」

※高学年以上は、

・「悲しい気持ちになるのは、どんな時ですか？」

・「はずかしい気持ちになるのは、どんな時ですか？」

など、その状況を考えて答えさせる。



よく使う日本語

～したことがありますか？～を知っていますか？【確認】
どう思いますか？【感想】

基本的な流れ

- 1 学校で飼っている動物（うさぎや鳥）がいれば、世話の仕方を調べる。もしいなければ、先生や児童が昆虫などを持ってくる。それもできなければパソコンで調べる。（聞く・話す・読む活動）



- 2 動物の世話をする。（聞く・話す活動）



- 3 動物クイズを作る。（書く活動）

うさぎクイズ



- 「学校のうさぎの名前は何ですか？」
「学校のうさぎは、何さいですか？」
「学校のうさぎは、何を食べますか？」

指導のポイント

- 世話の仕方は、①飼育委員に聞く ②本や図鑑で調べる
③パソコンで調べるなどの方法がある。

T:「うさぎ小屋のそうじをしたことがありますか？」

S:「ありません。」

T:「うさぎのえさを知っていますか？」

T:「飼育委員に聞いたり、本やパソコンで調べたりしましょう。」

※高学年以上は、

・飼育委員に聞きたいことをまとめてから、インタビューのようにして聞くと、国語の学習につながる。

- 実際に世話をして、動物とふれあう。写真も撮っておく。

T:「そうじをして、どう思いましたか？」

S:「大変です。きれいになってよかったです。」

T:「えさをあげて、どう思いましたか？」

S:「えさを食べました。うれしいです。」



ポイント

教材としてではなく、今後も継続して生き物の世話をしたり、関心をもったりできるような声かけを意識しましょう。

- 学級の友達に出すクイズを考える。実際に世話をした生き物についてのクイズを作るのがよいが、難しければ本やパソコンで調べたことで作ってもよい。

T:「うさぎクイズを作りましょう」

クイズの例

S:「学校のうさぎの名前は何ですか？」

S:「学校のうさぎは、何才ですか？」

S:「学校のうさぎは、何を食べますか？」

※高学年以上は、

・クイズに限らず、観察日記やポスター、紹介文など児童の実態に応じた書く活動にする。

家族を紹介しよう

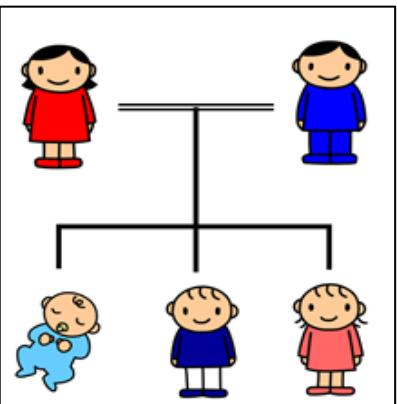
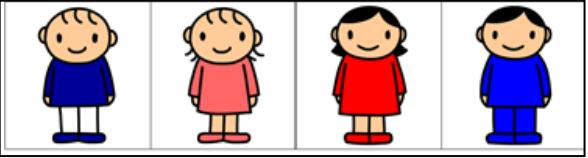
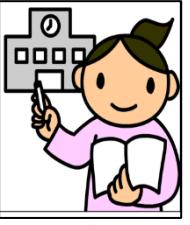


教科との関連

国語・生活

よく使う日本語

～は、何（いつ、どこ、だれ、どちら、どんな）です。【5W1H】

基本的な流れ	指導のポイント
<p>1 絵カードを使って、家族について話す。 (聞く・話す活動)</p> <div style="display: flex; align-items: center;">   </div>	<p>○絵カード（架空の家族）について質問をする。</p> <p>T: 「これは、だれですか？」 S: 「お母さんです。」</p> <p>T: 「お母さんは、どこにいますか？」 S: 「学校にいます。」</p> <p>T: 「仕事は、何ですか？」 S: 「先生です。」</p> <div style="background-color: #e0f2e0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※高学年以上は、 ・だれは、何を、どこで、をすべて含めた文で 答えさせる。</p> </div> <p>※絵カードにアニメのキャラクターや有名人を入れると楽しくできる。</p>
<p>2 絵カードと文字カードを裏返して広げマッチングゲームをする。（読む活動）</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <p>絵カード</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">男子 おとこのこ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">女子 おんなのこ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お母さん おかあさん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お父さん おとうさん</div> </div> <p>文字カード</p>	<p>○絵カードと文字カードが一致したらマッチング成功。</p> <p>T: 「絵カード、文字カードから1枚ずつ取って、絵と文字が合っていますか？」 S: 「合っています。／合っていません。」</p> <p>T: 「取ったカードについて答えましょう。 これは、だれですか？」 S: 「これは、お父さんです。」「お母さんは、先生です。」</p>
<p>3 自分の家族を紹介する文や家族への手紙を書く。（書く活動）</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <p>「お父さんは、 しょうぼうしです。」</p> </div> <p>「お母さんは、先生で いつもやさしいです。」 「ご飯を作ってくれて ありがとうございます。」</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 20px;">  </div>	<p>○自分の家族の年齢・仕事・好きなことなどを書かせる。家族に読んでもらうこと意識して書かせるとよい。</p> <p>T: 「自分の家族のことを『～は、～です』を使って書きましょう。」</p> <div style="background-color: #e0f2e0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※高学年以上では、 ・家族への感謝の手紙文のように書かせてもよい。 ・「～は、～です」に修飾語を入れた文で書かせる。</p> </div> <div style="background-color: #ffffcc; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p> ポイント 自分の家族を紹介することに抵抗がある場合は、 自分の友達のことや上の絵カードの家族のことを 書かせましょう。</p> </div>

絵カードは、ドロップレットプロジェクト (https://droptalk.net/?page_id=116) よりダウンロードしました。



よく使う日本語

いくつ（何こ／何本／何まい）？【数】

～をえらびました。～だからです。【理由】

基本的な流れ

- 1 絵カードを使って買い物ごっこをする。
(聞く・話す活動)



絵カードの表

りんご
100 円

ソフト
クリーム
200 円

ラーメン
550 円

絵カードの裏

指導のポイント

○はじめは、先生が店員、児童が客の役をする。

T: 「りんごは、いくつ欲しいですか？」

S: 「3つです。」

T: 「合わせて、いくらですか？」

S: 「300 円です。」

T: 「おつりは、いくらですか？」

※高学年以上は、

- ・絵カードにこだわらず、スーパーのチラシなどを使った買い物にする。
- ・かけ算やわり算を使って値段を出す問題にする。(1個あたりの値段を出すなど)

※実態に応じて買い物に条件をつけた聞き方もある。

「りんごが5つだったら、どうでしょう。」

「りんごが 50 円なら、どうでしょう。」

- 2 絵カードに自分のほしい物を書く。
(書く活動)



絵カードの表

本
100 円

くつ
800 円

ケーキ
320 円

絵カードの裏

○表に自分がほしい物の絵、裏に文字・値段を書かせる。

T: 「何をえらびましたか？」

S: 「本をえらびました。」

T: 「どうして本をえらびましたか？」

S: 「本を読むことが好きだからです。」

※高学年以上は、

- ・家庭科の学習と関連させ、おこづかいの適切な使い方や調理の材料としての買い物を考えさせる。
- ・「どうして」「なぜ」の質問に「なぜなら」「理由は」などと答えさせる。

- 3 自分で作った絵カードも使って買い物ごっこをする。(読む・話す活動)



○1と同じ活動をする。店員と客の役を交代してもよい。

「合わせて、いくらです。」

「おつりは、いくらです。」

「～と～をえらびました。」

「～だからです。」



更に発展させるなら、お金カードを使って、お金のやりとりを体験させるとよいでしょう。「おこづかい 1000 円をもって、買い物に行きましょう。何を選びますか？」など実態に応じて買い物ごっこを楽しめます。



よく使う日本語

合わせていくつ（何点）？ あといくつ（何点）？
どちらがいくつ多い（少ない）？ 【数】

基本的な流れ

1 的当てゲームを楽しむ。
(聞く・話す活動)



100円均一ショップで売られている的当てゲーム

2 玉入れゲームを楽しむ。
(聞く・話す活動)



運動会の玉入れが使えない場合は、100円均一ショップ等で売られているカラーボールでもよい。

3 筆算のやり方を確認する。
(書く活動)

	1				2	10
	1	5			3	2
+	1	7		-	2	5
	3	2				7

繰り上がりの数字をどこに書くかなど、在籍学級と同じ筆算のやり方にする。

指導のポイント

○遊ぶときは安全に気を付ける。

T: 「先生は、10点と20点と70点でした。
合わせて何点ですか。」

S: 「100点です。」

T: 「〇〇さんは、30点と40点ですね。
あと何点で先生より多くなりますか？」

○他のゲームでも

特別支援の教材や手作りのゲームでよいです。
何十や何百の計算ができる得点のあるゲームで
あれば同様の活動ができます。勝ったり、負けたりして、ルールを守る態度も育てましょう。

○繰り上がり足し算や繰り下がり引き算の練習である。

T: 「いくつ入ったか数えましょう。」

S: 「1、2、3…、15個です。」

T: 「2回目はいくつ入りましたか？」

S: 「1、2、3…、17個です。」

T: 「2回合わせていくつですか？」

S: 「 $15+17=32$ 32個です。」

○実態に応じて問題を変える。数ブロックなど半具体物を操作しながらやるとよい。

T: 「玉入れの数を筆算で答えましょう。」

T: 「先生の玉入れの数と、どちらがいくつ多いか筆算で答えましょう。」

S: 「私が32個、先生が25個です。」

$32-25=7$ 私が7個多いです。」

※高学年以上は、

・かけ算やわり算の筆算で1回あたりの平均得点、何%入ったか、先生の数の何倍かなどを求める。

・母国(日本)の筆算のやり方が身に付いている場合は、そのやり方を理解し、認める。日本のやり方も教えて、共通点や相違点を考えさせる。

かけ算九九 で数えよう



教科との関連

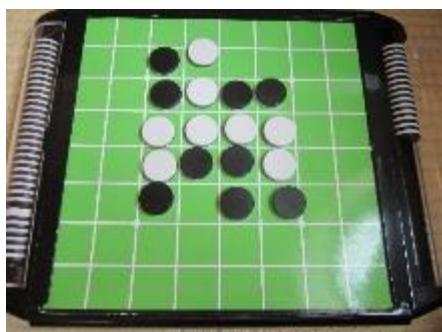
算数・生活

よく使う日本語

いくつ? 【数】 ~ずつまとめましょう。【整理】
~するためには、どうしたらいいでしょう。【方法】

基本的な流れ

- 1 ゲームを楽しむ
(聞く・話す活動)



指導のポイント

○ルールを知らない児童には操作をしながら教える。操作をしながら「はさむ」「うらがえす」などの意味を理解させる。

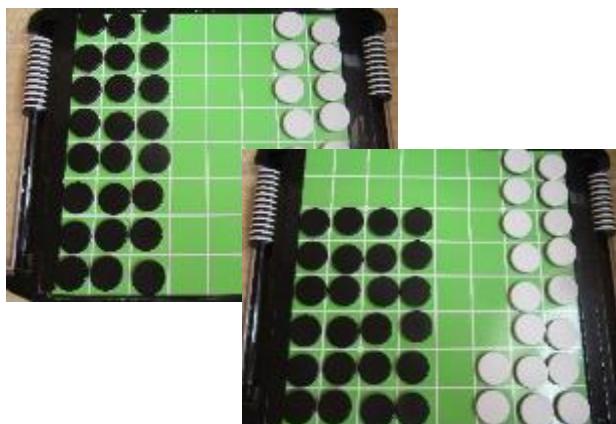
T: 「白を黒ではさむと、黒に変わります。
最後に多いほうが勝ちです。」

T: 「黒をはさむためには、どうしたらいいでしょう。」

とにかく楽しく遊ぶ

勝ったり、負けたりを体験させましょう。少し先を読む力、ルールを守る力など遊びの中に学びがあります。山くずし、五目ならべでも遊ぶことができます。

- 2 ゲームが終わったら、コマをかけ算を使って数える。
(聞く・話す活動)



○コマをアレイ図のようにして、かけ算で数える。

T: 「速く数えるためには、どうしたらいいでしょう？」

S: 「コマをまとめます。」

T: 「8個の列が3列できました。いくつですか？」

S: 「 8×3 で 24 です。」

さらに発展させるなら

ゲームから離れ、コマのつかみ取りで、早く計算して数えるゲームにうつるとよいでしょう。
8の段だけではなく、いろいろな段で計算させましょう。 8×3 は 6×4 に変形できるなどを体験させるとよいでしょう。

- 3 九九を使ったいろいろなゲームに取り組む。(読む・話す活動)
※ここでは九九bingoを行う

4のたんbingo		
4	28	16
24	12	8
32	20	36

○実態に応じて活動を変える。かけ算九九表や具体物を見ながらやるとよい。

「4の段の答えを書きましょう。」

「4のまとめが2つでいくつですか？」

S: 「 4×2 で 8 です。」

「bingo表の8に○をつけましょう」

※高学年以上は、

・かけ算九九が身に付いている場合は、活動のレベルを上げ、実態に応じた活動にする。

・その場合も計算練習ではなく、具体物を使った活動にする。



よく使う日本語

何時、何分ですか？【時刻】

何時間、何分間ですか？【時間】

基本的な流れ

- 1 ストップウォッチを見ないで、10秒たったと思うところで止める。
(聞く・話す活動)



指導のポイント

○10秒という時間の長さの感覚と言葉の意味を理解させるための活動である。何度も行わせてみるのがよい。同じように30秒、1分でも何度も行わせる。

T: 「10秒だと思ったら時計を止めます。」

S: 「止めました。おしい！12秒でした。」

T: 「1分は何秒ですか？」

S: 「60秒です。」

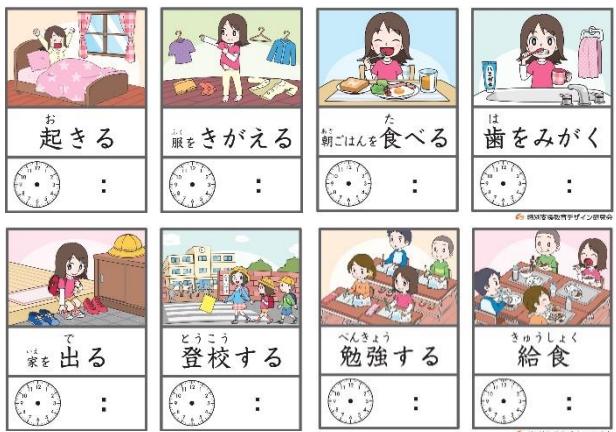
T: 「1分だと思ったら時計を止めます。」

S: 「やった！ぴったり60秒でした。」

T: 「おや、授業が始まってから何分経ちましたか？」

S: 「15分経ちました。」

- 2 一日の生活の絵カードを順番に並べて、時刻を書く。(読む・書く活動)



○自分の一日の生活の順番に並べてから、その時刻を書く。時刻を意識していないくて分からぬ場合には、次回の課題にしてもよい。学校生活の時刻は分かりやすいので、学校生活の時刻から書き始めてよい。

T: 「何時何分に起きますか。」

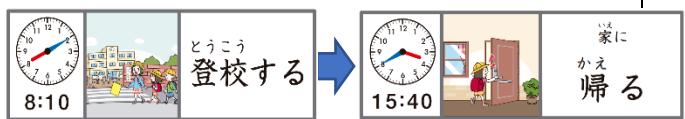
S: 「6時30分です。」

T: 「何時何分に給食を食べますか。」

S: 「12時40分です。」

時刻が分からぬ児童には、算数セットの時計の模型を使って教えましょう。時計の読みは日本人児童でも定着に時間がかかるので、焦らず少しづつできるようになればよいでしょう。

- 3 絵カードや時計すごろくで、時間についての問題を考える。(聞く・話す活動)



○絵カードを使うか時計すごろくを使うかは実態による。どちらも、時計の模型やデジタル時計が支援になる。

T: 「給食の時間は、何分間ですか？」

S: 「20分間です。」

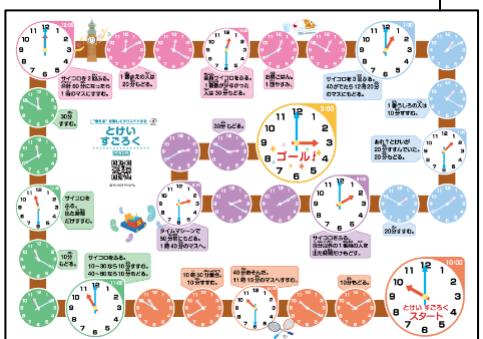
T: 「学校にいる時間は、何時間何分間ですか？」

S: 「7時間30分間です。」

※高学年以上は、

・「何分後は？何分前は？何時間何分後は？」など児童の理解度に応じた質問をする。

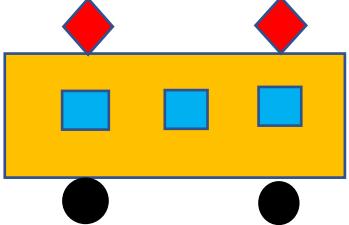
時計すごろく





よく使う日本語

どんなことを聞いたか、話してください。【指示】

基本的な流れ	指導のポイント
<p>1 先生の伝言を聞いて、形を作るゲームを行う。(聞く・話す活動)</p> <p>→見せずに伝言する</p> 	<p>○先生が色板や折り紙で作った形を児童に見せずに言葉で伝言する。児童はそれを聞いて、形を再現する。始めは、簡単な形にする。児童は途中で質問してもよい。</p> <p>T: 「四角の上にダイヤを2つ置きます。」 T: 「四角の下に丸を2つ置きます。」 S: 「下というのは、ここですか？」 T: 「そうです。では先生が作った形と同じになったか、見てみましょう。」</p> <p>※高学年以上は、 ・正方形、長方形、直角三角形、二等辺三角形、正三角形、平行四辺形、台形、円、一辺の長さ〇cm、半径〇cmなど算数用語を使う。 ・慣れたら役割を交代してみる。</p>
<p>2 伝言ゲームをする。 (聞く・話す・書く活動)</p> 	<p>○先生が言った文を聞いて、正しく伝えられるかの練習である。先生と1対1の場合は、糸電話を使って、電話の受け答えのようにすると楽しくできる。</p> <p>T: 「先生が言う文を覚えてください。」 T: 「明日、学校に折り紙を持ってきてください。」「話してください。」 S: 「明日、学校に折り紙を持ってきてください。」</p> <p> ポイント 一言一句正しく伝えられる必要はありません。児童の実態に応じて、伝言する文を変えましょう。聞き取った文を書いてもよいでしょう。</p>
<p>3 人や物の特徴を聞いたり話したりして、絵本の中から探すゲームをする。 (聞く・話す活動)</p> <p>人や物がたくさん描いてある絵本などを使う</p> 	<p>○始めは先生が人や物の特徴（色、形、大きさ、服、持ち物、髪型など）を話し、児童が絵の中から探す。慣れたら、役割を交代し、児童が話をする。</p> <p>T: 「絵本の中から見つけてください。」「色は、白と黒です。」「形は、丸いです。」「スポーツで使います。」</p> <p>S: 「サッカーボールですか」「見つかりました。」</p>



よく使う日本語

～にちゅういします。～に気をつけます。【注意】
どのようになりましたか？～になりました。【変化】

基本的な流れ

1 ホットケーキの作り方を聞いて材料を混ぜる。(聞く・読む活動)

①まず、ボールに卵と牛乳を入れて混ぜます。



②つぎに、ミックスを入れて混ぜます。



次のモジュールと 続けて行うほうがよい

2 ホットケーキを焼いて切る。

(聞く・話す活動)

③それから、ホットプレートで3分焼きます。



④あわがでたら、うらがえして2分焼きます。

3 ホットケーキの作り方を書く。
(書く活動)

ホットケーキの作り方

まず、たまごと牛にゅうを入れてまぜます。

つぎに、ミックスを入れてまぜます。

それから、ホットプレートで3分やきます。あわがでてきます。

指導のポイント

○絵本「しろくまちゃんのほっとけーき」(わかやまけん作 こぐま社) を読むと作り方とホットケーキができていく様子がわかりやすい。



材料（3枚分）：ホットケーキミックス 150g
牛乳 100mL(1dL) 卵 1個

道具：ボール、ホットプレート、フライ返し
5枚分なら材料は？ 6枚分なら？ と算数の比の問題としてもよいでしょう。その他のかんたんな調理として、クレープ・プリン・ゼリーなどがあります。

T: 「手を洗い、マスクをします。やけどをしないようにちゅういします。」

T: 「まずボールに卵と牛乳を入れて混ぜます。」

T: 「つぎに、ホットケーキミックスを入れて混ぜます。どのようになりましたか？」

S: 「色が変わりました。とけてどろどろになりました。」

T: 「何にちゅういしますか？」

S: 「やけどにちゅういします。」

T: 「どのようになりましたか？」

S: 「あわが出てきました。焼けました。」

T: 「4枚(6枚・8枚)に分けましょう。」

※高学年以上は、

- ・ $\frac{1}{2}$ や $\frac{1}{4}$ など分数の考え方を取り入れる。
- ・家庭科の調理実習の練習として準備・片付け・時間を見計画して計画させる。



○作っている時の写真や絵本を見ながら書かせるとよい。モジュール「おもちゃ」「観察」の作文は縦書きであるが、本時のモジュール「料理」は横書きとした。実態に応じてどちらを用いてもよい。

T: 「まず(次に)何をしましたか。」

T: 「混ぜるとどのようになりましたか？焼くとどのようになりましたか？」

※高学年以上は、

- ・材料や準備するもの
 - ・作り方とその絵、写真
 - ・変化していく様子や味
- も加えて、段落も意識した作文形式で書かせる。

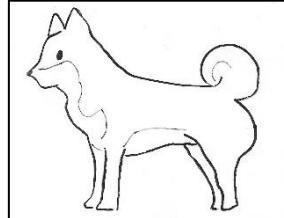
日本語中期（かけはしプログラム）資料一覧

授業の中で使用している資料です。リンクから巻末の付録に移動します。
授業案の下にリンクがある資料は、そちらからダウンロードしてください。

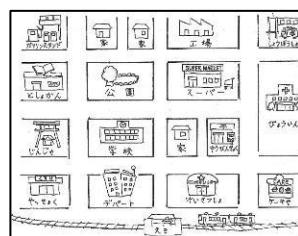
「おもちゃを作ろう」の写真・ワークシート



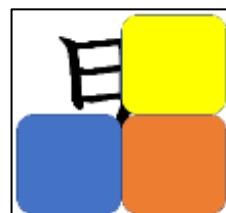
「観察をしよう」のペーパーサート



「道案内をしよう」の地図



「漢字に親しもう」のスライド



「お話を作ろう」の絵



「買い物をしよう」の絵カード



「料理をしよう」の写真



3 日本語と教科の統合学習

(1) JSL (日本語と教科の統合学習)

日本語中期指導を終えた後、もしくは並行して、更に在籍学級へつなげる力をつけています。日本語を学びながら在籍学級の教科の内容を学ぶJSLカリキュラム(以下JSL)です。国語・算数・社会・理科などの教科の内容を個別（少人数）学習で、在籍学級より少し先取りして指導することで、外国人児童生徒等は在籍学級で学ぶ際も自信をもって取り組むことができます。ここでは算数と社会を例にしますが、「4 授業・教材づくり JSLの視点を取り入れた授業」(p. 39) も参考にしてください。

「JSL」とは、日本語を学ぶことと教科内容を学ぶことを、1つのカリキュラムとして構成した「日本語と教科の統合学習」のことです。日本語の基礎的な学習を終えた児童生徒を対象に、在籍学級で教科学習に参加するための日本語で学ぶ力を育むために文部科学省が開発しました。「JSL」は Japanese as a Second Language の略で「第二言語としての日本語」の意味です。小学校版は 2003 年に、中学校版は 2007 年に公開されました。以下の文部科学省のHPにも公開されています。

「小学校編」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001.htm

「中学校編」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/jsl/1287871.htm

JSLの基本的な考え方

① 実態を把握する

- 教科の内容はどれくらい身に付いているか
- 日本語の力はどれくらいか



② 「教科の目標」と「日本語の目標」を考える

- 教科の目標を達成するために必要な日本語の語彙と言葉を考える
- 日本語の目標は、AU一覧（※）を参考にするとよい

※AUとはActivity Unitの略で、教室でよく使われる発問や指示を体系化したもの
例：「知識・体験を確認する」場面で使う「～したことがありますか。」「はい、したことがあります。」など

AU一覧 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008/004.htm

③ 理解支援・表現支援・記憶支援を考える

- 【理解支援】視覚化したり、言葉を言い換えたりして、理解を促す支援
【表現支援】選択肢を与えたり、キーワードを示したりして、表現を促す支援
【記憶支援】動作に結び付けたり、声に出したりして、記憶を促す支援

JSLの日本語支援一覧

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/fieldfile/2015/10/06/1235804_002.pdf

J S Lの授業例①

小学校2年 算数科 「数のあらわし方」

①実態を把握する

- ・第1学年「大きい数」の学習では、120程度までの数の数え方を学習したと想定する。
- ・第2学年の本単元の初めに、200、300、…、900までの数の数え方を学習したと想定する。
- ・週3時間の取り出し、DLAの判定ステージ(p.32参照)は2~3(初期から中期)と想定する。

②「教科の目標」と「日本語の目標」を考える

教科の目標

1000の構成や大きさ、表し方、読み方を理解する。

日本語の目標

100を10個集めた数は、「千(せん)」と言い、「1000」と書くことができる。

- ・前時までの学習を振り返る

AU 「～は、何ですか」
「～は、～です」を意識する

100は、ひゃくです。
200は、にひゃくです。
300は、さんびゃくです。
…
900は、きゅうひゃくです。

めあて：大きな数を読もう。

- ・数ブロックをつかみ取る(1回目は片手)

つかんだ数を読む
AU 「～は、いくつですか」を意識する

例 100が5個 10が4個 1が7個で
547(ごひゃくよんじゅうなな)です。

- ・数ブロックをつかみ取る(2回目は両手)
つかんだ数を読む(1000以上になるように)

例 100が12個 10が8個 1が2個で
(じゅうにひゃくはちじゅうに)ではなく
100が10個で1000となるので
(せんにひゃくはちじゅうに)です。
1282と書きます。

- ・100が10個で何と言うかをまとめる

AU 「～は、～と言います」を意識する

まとめ：100を10個あつめた数は千(せん)と言い
1000と書きます。

③支援を考える

【理解支援】変則的な読み方を☆★で視覚化する

100	ひゃく
200	にひゃく
300	さんびゃく ☆
400	よんひゃく
500	ごひゃく
600	ろっぴゃく ★
700	ななひゃく
800	はっぴゃく ★
900	きゅうひゃく

【理解支援・記憶支援】



数ブロックを
つかみ取る



位にそろえて
数を読む

【表現支援】表現モデルを示す

100を10個あつめた数を()
()と書きます。

小学校3年 社会科 「学校のまわり」

①実態を把握する

- ・第2学年生活科「町たんけん」の学習は未習と想定する。
- ・第3学年の本单元の初めに、東西南北の方角を学習したと想定する。
- ・DLAの判定ステージは2~3(初期から中期)、日本の社会背景知識は非常に乏しいと想定する。

②「教科の目標」と「日本語の目標」を考える

教科の目標

地図記号とその施設の写真を対応させて、地図記号の特徴を理解することができる。

日本語の目標

「～は～するところです」「地図記号の～と写真の～が似ています」の文型を使って、地図記号の表す施設を説明することができる。

- ・前時までの学習を振り返る

教室にマス目をつくり、東西南北の方角に実際に動いて前後左右との違いを体感する

例 先生の指示

東に3歩、南に3歩進みましょう。今度は、西に1歩、北に2歩進みましょう。

そこに地図記号が見つかりましたか？

何の地図記号でしょう？

めあて：地図記号のひみつを見つけよう。

- ・地図記号とその施設の写真を対応させる

AU 「～は～するところです」

「～と～が似ています」を意識する

例 児童の反応

図書館は本を借りるところだから、
本の記号かな。

神社の鳥居の形と記号の形が似ているかな。

- ・地図記号と写真を対応させた理由を説明する

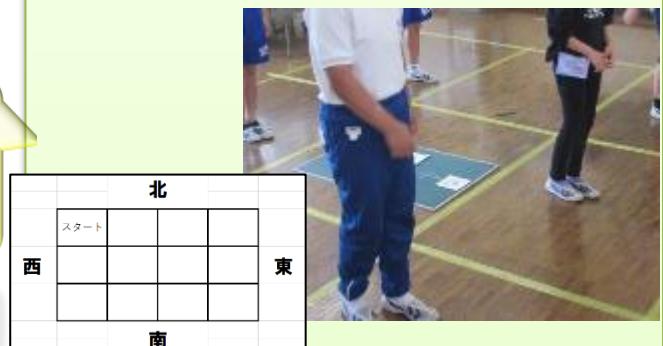
例 児童の反応

図書館は本を借りるところです。
地図記号と本の形が似ています。

まとめ：地図記号は、その施設と関係したもの
の形になっている。

③支援を考える

【理解支援・記憶支援】動作化する



【理解支援・記憶支援】写真で視覚化する



【表現支援】表現モデルを示す

・～は～するところです。

・地図記号の～と写真の～が似ています。



J S L の授業例③

小学校4年 社会科 「浄配水場の見学」

①実態を把握する

- ・第3学年では、商店街や工場見学を経験したと想定する。
- ・第4学年では、清掃センター見学を経験したと想定する。
- ・週3時間の取り出し、DLAの判定ステージは3~4、日本の社会背景知識は乏しいと想定する。

②「教科の目標」と「日本語の目標」を考える

教科の目標

私たちの使っている水には、安全にする仕組みがあることに気付く。

日本語の目標

「沈む（沈殿）・ごみを除く（ろ過）・きれいにする（浄水）」という言葉にふれ、浄配水場の見学に興味関心をもつ。

- ・水道水と雨水を比べて気付いたことを話す

AU 「～と～を比べると～です」を意識する

水道水と雨水を比べると、
水道水はきれいです。
雨水はきたないです。にぎっています。

めあて：水をきれいにする方法を考えよう。

- ・水をきれいにするミニミニ浄配水場を作る

それぞれの体験活動と言葉を合わせていく

- ①雨水をかき回す→かきまわす→拡散
- ②ごみが沈んでいく→しずむ→沈殿
- ③沈殿した上水をろ紙でこす→ごみをとる→ろ過
- ④薬品を入れる→ばいきんをなくす→消毒

水をきれいにする→浄水
きれいになった水を配る→配水

- ・水道水と自分達できれいにした水を比べ、まとめる

体験活動の言葉と表現モデルを使ってまとめる

まとめ：水道水は、浄配水場で、沈でん・ろ過・消毒してきれいに（浄水）しています。

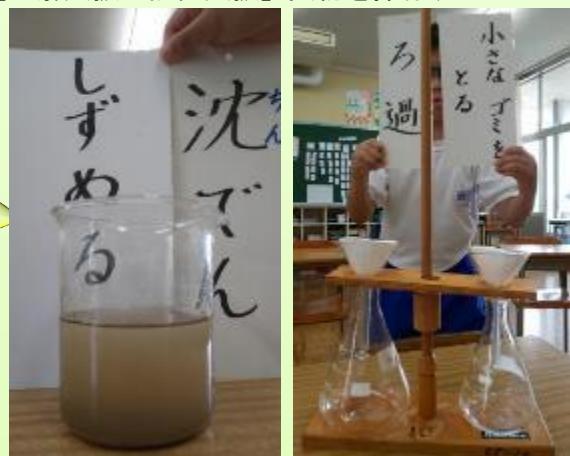
体験活動の言葉と浄配水場の写真を対比させ見学への興味関心を高める

③支援を考える

【理解支援】視覚化する



【理解支援・記憶支援】実物を操作する



【表現支援】実物と表現モデルを示す



水道水は、()で、()して
きれいに（浄水）しています。

(2) 個別の指導計画

外国人児童生徒等に、取り出し指導で特別の教育課程を行う場合は、「個別の指導計画」を作成することになっています。（詳しくは「ぐんぐんガイド」p.47～52）

「個別の指導計画」は、日本語指導と在籍学級の指導をつなぐための大切な資料です。指導に関する記録では、これまでに身に付けた学習内容や日本語の力を把握し、どのくらいできているのか、どこが不十分なのかを明らかにします。そうすることで、日本語指導でも在籍学級の指導でも、その児童生徒に合わせた適切な支援を行うことができます。

次ページでは、日本語の力を測定する方法として「DLA」を紹介します。

様式 1

(学校内で作成する指導計画 様式例)									
個別の指導計画(参考様式) 様式1(児童生徒に関する記録)									
在籍	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
				H29	H30	R1	R2		
フリガナ 児童生徒氏名 (通称)	(男・女)				国籍等	ブラジル			
フリガナ 保護者氏名 (通称)					続柄	父			
生年月日	〇年 〇月 〇日			出生地	ブラジル				
入国年月日	平成29年 3月25日		学校受入年月日	平成29年 4月 1日					
家族構成	祖父、父、母、姉、本人、弟								
家庭内使用言語	祖父・弟は日本語、父・母・姉とはポルトガル語								
生育歴・学習歴	ブラジルで、小学校に就学。 平成29年度 前年度末に来日。小学校5年生に編入。 日本語指導を週に7時間。 令和元年度 中学校に入学。 日本語指導を週に4時間。 令和2年度 「特別の教育課程」による日本を指導を週に4時間。								
学校内外での支援状況	毎週土曜日2時間 ○○国際交流協会開催の日本語教室								
進路希望	進学(○○高校○○学科)								
その他	発達障害の診断等 宗教上の配慮事項 等								

様式 2

(学校内で作成する指導計画 記入例)									
個別の指導計画(参考様式) 様式2(指導に関する記録)									
日本語力	()年	作成者	作成日	年 月 日					
			更新日	年 月 日					
基本的な文型で構成された2～3次の会話を、ゆっくりとした速さなら聞いて理解できる。 理解できる言葉であっても、自分で話したり書いたりできる内容は限定的である。 ※児童生徒の日本語の力を、「話す、読む、書く、聞く」の4技能、あるいは①会話力(主として単語での発話か、単語を幾つぐらいで話しているか、どの程度の文が聞き取れているかなど)②文字の習得度(ひらがな・カタカナ・漢字が何年生程度など)③読解作文の力(単文レベルか、重文・複文まで可能か、それから構成された文章はどのような内容まで理解できるかなど)などの視点から記入する。									
指導目標	【初期の後期段階】 ①日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など、基礎的な日本語の力を育てる。 ②日本の学校生活や社会生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ※一例として、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(※注)の「大目標」等が考えられる。								
指導計画									
段階	4	5	6	7	※一例として、「日本語の能力に応じた指導プログラム例」(※注)の「日本語の学習段階」等が考えられる。				
日本語学習内容	①日本語の基礎学習 ②技能別日本語学習 ③日本語と教科の統合学習 ④教科の補習 ※8月に計画を見直して記載する。								
「特別の教育課程」による日本語指導	【前期】 ①基本的な文型や語彙を使って会話ができるようにする。 ②平易な文で構成された、ある程度まとまった内容の文章を読んで理解できるようにする。 ③教科書を簡単な日本語に書き換えたもので在籍学級の授業の予習を中心に行う。 【後期】 ④算数・理科はなるべく教科書を使い、学習活動に必要な重要表現を取り上げて指導する。 ⑤未習事項が多いので、在籍学級の学習に関係する内容から補う。								
指導計画	※上の表で示した「日本語学習内容」の内容別に記入することが考えられる。 各教育委員会等で独自の「学習段階」「学習内容」を設定している場合は、それに基づいて記入する。 ※一例として、「学習目標例」(※注)を参考に記載すること等が考えられる。								
指導者	○○巡回指導員								
指導場所	○○ルーム 指導時数 週4時間								
上記以外の指導等	社会科は週2時間在籍学級でTT指導。 毎週土曜日、国際交流協会が開催する日本語教室へ参加。								
指導内容・方法に関する評価及び学習状況の評価等	・学習意欲はあるが、教科に関する未習事項が多く、授業内容に対応しきれていない。 ・間心のある分野であれば、ある程度まとまった文章を理解できるようになった。 ・表現することに苦手意識があるようなので、発言や作文がしやすいような支援方法を検討する必要がある。								
※どのような指導をした結果、どのような学得結果となったかについて記入する。 今後に向けて、どのような指導をしていくよいかなどの参考になることを記入しておくと次年度の指導につなげることができる。									
※注 情報検索サイト「かすたねっと」の「教材」→「指導者」から、資料を検索することができる。									

様式 1

<出典>文部科学省 個別の指導計画（児童生徒に関する記録）記入例（一部修正）

様式 2

<出典>文部科学省 個別の指導計画（指導に関する記録）記入例

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1341903.htm

※この他に「特別の教育課程編成・実施計画(報告)書」を作成し、各市町村教育委員会に提出する必要があります。（記入例は上記リンクにあります）

(3) DLA (外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント)

DLAとは文部科学省が開発した「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント」のことです。外国人児童生徒等の日本語の力を全国的・客観的な基準で測定することができます。「はじめの一歩」と「話す」「読む」「書く」「聴く」の4技能について、学習に必要な日本語の力を指導者と対話をしながら測定していくことが特徴です。

文部科学省DLA資料 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm

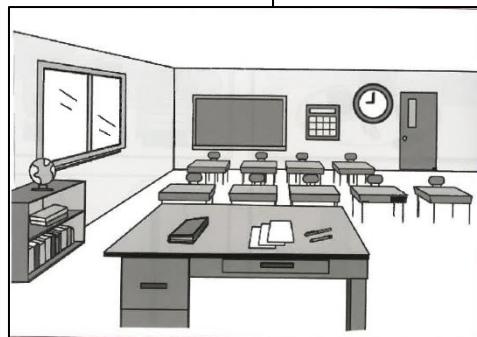


◆外国人児童生徒の総合的な学習支援事業
外国人児童生徒のための
JSL対話型アセスメント

DLA
Digital Language Assessment for Japanese as a Foreign Language

文部科学省初等中等教育局国際教育課

- 「これからカードを見て、先生と少しお話をします。
先生が言うことがわからない時は、わからないと言ってもいいですよ。では始めましょう」
- ① 「ここはどこですか」
- ② 「この部屋に、何がありますか」
- ③ 「先生の机はありますか」
- ④ 「では、先生のいすは？」
- ⑤ 「先生はいますか」

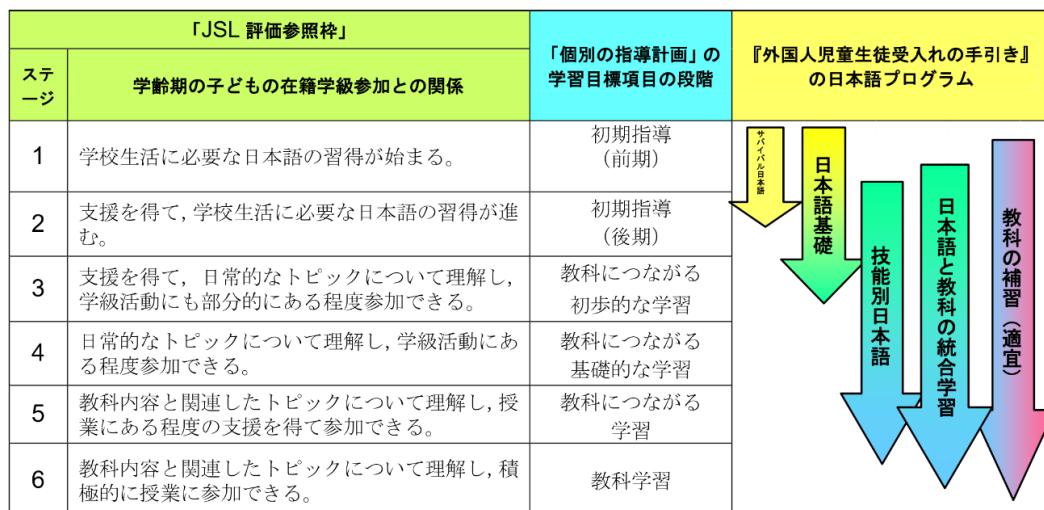


表紙

「話す力」のアセスメントの一例

測定の方法、留意点などは、動画を見ると分かりやすいです。

動画1 概要	https://www.youtube.com/watch?v=f8QChp2FdLM
動画2 はじめの一歩	https://www.youtube.com/watch?v=0fQAv2YWSCU
動画3 話す	https://www.youtube.com/watch?v=CT1B_ZQFDFw
動画4 書く	https://www.youtube.com/watch?v=4YFMiUW86hY
動画5 読む	https://www.youtube.com/watch?v=LuKBRft9f0s
動画6 聴く	https://www.youtube.com/watch?v=B4DWDLyYHn0



「JSL評価参照枠」と「個別の指導計画」の学習目標項目の段階と日本語プログラムとの関係
更に詳しい表は以下の「かすたねっと」（外国人児童生徒等の学習を支援する情報検索サイト）
中の教材検索「個別の指導計画」作成参考資料②学習目標例～初期段階～に掲載されています。

<https://data.casta-net.mext.go.jp/kyouzai/mext/shidou/mokuhyou-rei-syoki.pdf>

日本語の力 その他の把握方法

◆伊勢崎市「つながる・ひろがる ISESAKI ステップ」
<https://www.city.isesaki.lg.jp/material/files/group/77/2020isesakistep.pdf>

◆太田市「にほんご いっぱいおぼえたよ！」
http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=325

4 授業・教材づくり

在籍学級で、外国人児童生徒等にも分かりやすく、参加しやすい授業にはどんな支援が必要でしょう。ここから具体的な支援例を紹介していきます。教科・学年・実態に応じて、その支援を授業の中に取り入れることで、外国人児童生徒等にも分かりやすく、参加しやすいユニバーサルデザイン化された授業になるでしょう。



(1) 「やさしい日本語」の視点

やさしい指示・発問

① 短文・單文にする

(1 主語、1述語の原則)

教科書を出して12ページの問題をグループで読んだらノートに写します。

教科書を出します。
12ページを開きます。
問題をグループで読みます。
ノートに書きます。

② 難しい言葉は言い換える

(漢語・外来語よりも和語)

- ・20%軽量化された書籍の重量は何g?
- ・大型の台風が接近し勢力は衰えないでいる。

- 20%軽くなった本の重さは何gですか? ※内容レベルは下げない。
- ・大きな台風がきて勢いは強いです。

③ 文末を丁寧語で統一する

書くのをやめて顔をあげてみて。
大切なことだから。聞きそびれないように。

書きません。
顔を上げてください。
大切なことです。
聞いてください。

④ あいまいな表現は明確にする

- ・おそらく大丈夫だと思われます。
- ・それはできないことはないです。
- ・ちゃんとプリントを回してください。

- 大丈夫です。
それは、できます。
丁寧にプリントを配ってください。

⑤ 「れる・られる」は言い換える

徳川家康によって開かれた江戸幕府初期には貿易が行われていたと考えられています。

徳川家康が江戸幕府を開きました。
はじめは貿易を行っていました。
※受身と可能をわかりやすく言い換える。

⑥ 連体修飾語は短くする

昨日の2時間目にみんなで新しく考えた平行四辺形の面積の公式を使って今日は三角形の面積を求めます。

平行四辺形の面積の公式を考えました。それを使って三角形の面積を求めます。
※大切な学習用語は言い変えない。

⑦ その他、心がけること

- ・ゆっくり、はっきりした口調で話す。
- ・結論や大切なことは、始めに話す。
- ・速さ、大きさ、抑揚を変えて話す。
- ・「大切なことを3つ話します。」など前置きをして話す。

- ・先生自身が英語訳できる程度を目安に話す。
- ・絵、写真、ジェスチャーを使って話す。
- ・相手の表情や反応を見ながら話す。
- ・黒板や資料を指しながら話す。

豊橋市多文化共生・国際課「やさしい日本語を使ってみよう！」

<https://www.city.toyohashi.lg.jp/23542.htm> を参考にしました。

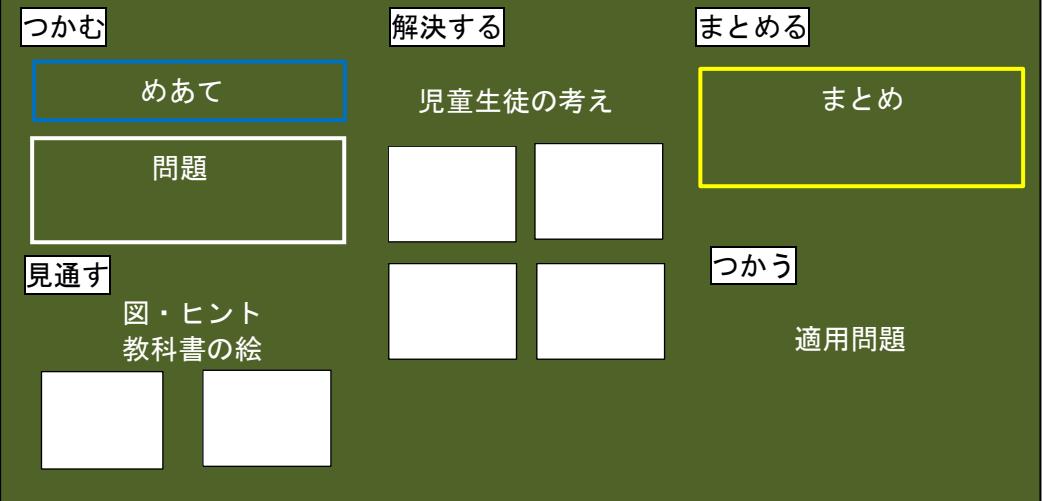
(1) 「やさしい日本語」の視点

やさしい板書

(算数を例にしました)

ポイント

- ・授業の流れを示す
(つかむ、見通す…)
 - ・ノートと同じ改行になるようにする
 - ・囲む線の色を全校で統一する
 - ・書く量が多すぎないようとする



リライト・分かち書き・ふりがな

教材をやさしい日本語に書き換えたり(リライト)、文節ごとに空白をとって書いたり(分かち書き)、ふりがなをつけたりする工夫です。ただし、学習用語や内容レベルは下げないことと、あらすじを理解したら原文を読み直すことが大切です。

村からはなれた山の中に
きつねが住んでいました。
名前は、ごんです。
ごんは、いつもひとりの
小さいきつねです。
ごんは、森の中にあなを
ほつて住んでいました。

その中山から、すこしはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんぎつねは、ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっぱいしげつた森の中に穴をほって住んでいました。

旧式の乗用車はガソリン 30L で 360 km の距離を移動することができる一方、新型の乗用車は同量の燃料で 450 km の距離を移動できます。単位量あたりの移動距離を比較しましょう。

古い車は ガソリン 30L で 360km 走ります。
新しい車は ガソリン 30L で 450km 走ります。
1Lあたり 何km 走るか くらべましょう。



「外国人・特別支援児童・生徒を教えるためのリライト教材」
(ふくろう出版)には国語の主なリライト教材が掲載されています

デジタル教科書（指導者用、学習者用）

教科書と同じ画面を黒板に写す ことで、どこの学習をしているのかがわかり、外国人児童生徒等への支援となります。その他のメリットは、

- ・画面を大きく拡大できる
 - ・読み上げ機能や音声を再生できる
 - ・ふりがなをつけることができる
 - ・書き込みやマーキングができる
 - ・動画やアニメーションを見ることができる
 - ・ワークシートが用意されている

などです。

指導者用デジタル教科書は多くの学校で導入が進んでいますので、積極的に活用しましょう。さらに今後は学習者一人一人への導入も進んでいくことが考えられます。

(2) 「特別支援教育」の視点

在籍学級の通常の授業に特別支援教育の視点を取り入れることで、外国人児童生徒等だけではなく、日本人児童生徒にも分かりやすく、参加しやすい授業になります。視覚化や実物による直接体験など、授業づくり(3) J S Lの視点と共に考える考え方も多いです。両者を分けて考える必要はなく、ユニバーサルデザイン化をめざして積極的に取り入れていきましょう。



視覚化（ビジュアルに引き付ける）

ポイントは、「聞くだけの時間を減らす」です。

情報の80%は目から入ると言われます。特に言葉に壁のある外国人児童生徒等にとって耳からの情報（聴覚）だけでは分かりにくいことが多いです。視覚を使い、時には触覚や嗅覚、味覚も使って、分かりやすく引き付けましょう。

<p>2Lのジュースを3等分すると</p>	<p>絵、写真、動画を見せる</p>	<p>クイズ形式で見る</p>
<p>实物を見る、操作させる</p>	<p>絵、写真、動画を見る</p>	<p>どんな表情ですか？</p>

<p>フラッシュカードでテンポよく見る</p>	<p>授業の見通しを見る</p>	<p>時間を見る</p>
<p>どの国？</p>	<p>今ここ</p>	<p>00:50</p>

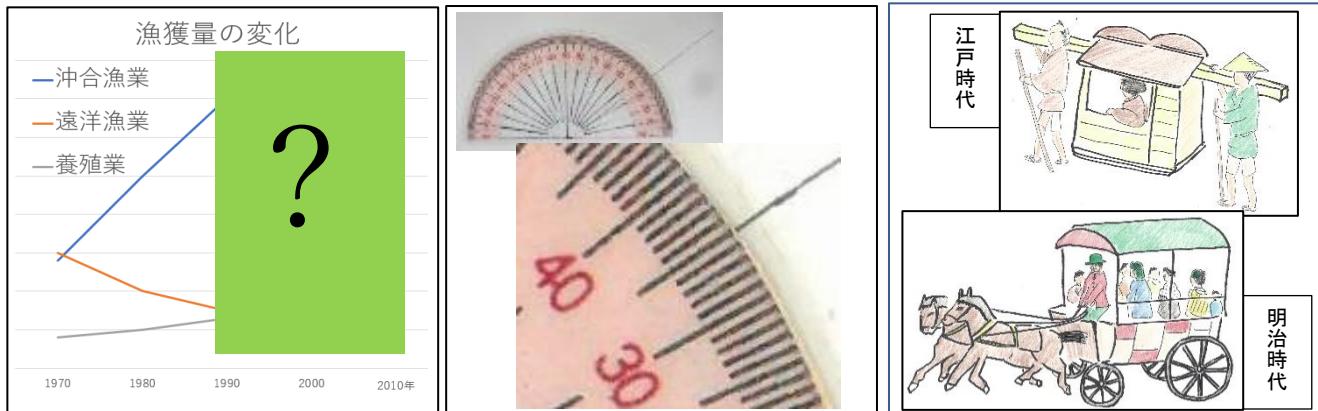
<p>表情マーク</p> <p>心情メーター</p> <p>反対 賛成</p>	<p>①たてる ②かける ③ひく ④おろす</p> <p>3 / 7 2</p>	<p>〇〇さんの考えは、 〇〇さんの考えにつけて 〇〇さんの考えとちがつて りゅうは、 はい、 うだと思います。 うだからです。</p>
<p>表情・心情を見る</p>	<p>やること・手順を見る</p>	<p>表現モデルを見る</p>

(2) 「特別支援教育」の視点

焦点化（シンプルにしほる）

ポイントは、「情報をしほって、方向付ける」です。

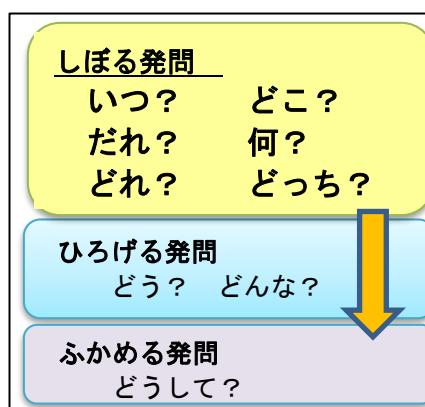
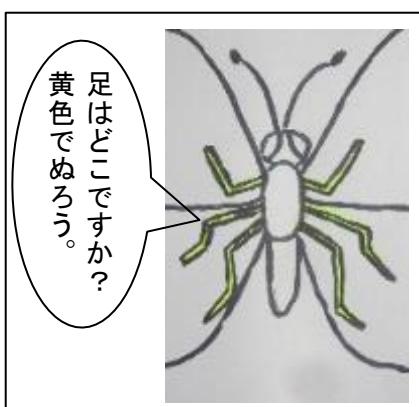
情報が多くなると外国人児童生徒等には、どれが大切なのが分かりにくくなってしまいます。ポイントをしほって、すること・考えることを方向付けましょう。



資料を隠して考え方をしほる

アップにして視点をしほる

比較させて視点をしほる



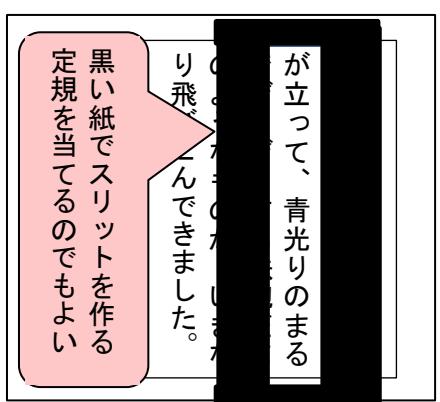
あいまいな指示
ちゃんと話しましょう。
しっかりそうじしましょう。
きちんとそろえましょう。

わかりやすく、しほった指示
「です・ます」をつけて
話しましょう。
ごみを 10 個拾いましょう。
マス目にそろえましょう。

色分けして視点をしほる

始めは発問をしほる

指示をしほる



選択肢で考え方をしほる

まちがいを生かして考え方をしほる

見る部分をスリットでしほる

(2) 「特別支援教育」の視点

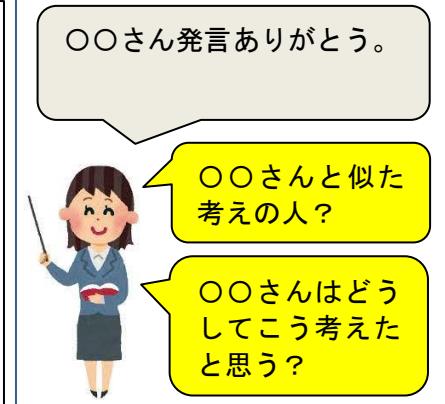
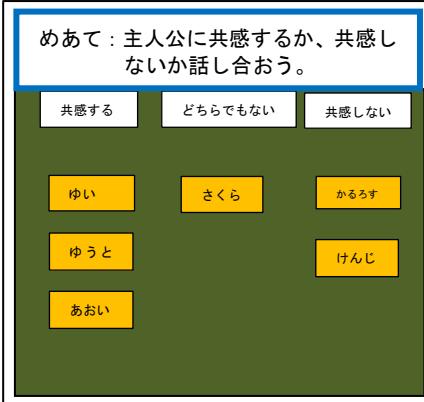
共有化（シェアしてそろえる）

ポイントは、「理解の早い子の考え方だけで進めない」です。

理解の早い一部の日本人児童生徒だけの考え方で授業が進められると感じると、外国人児童生徒等の意欲は低くなってしまうことがあります。授業の折々で理解度、立ち位置をそろえ、授業に参加する意欲を高めましょう。



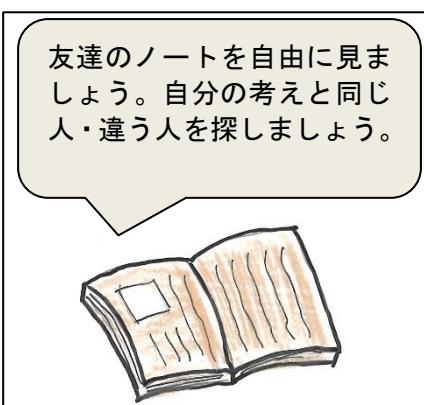
ペア・グループで共有する



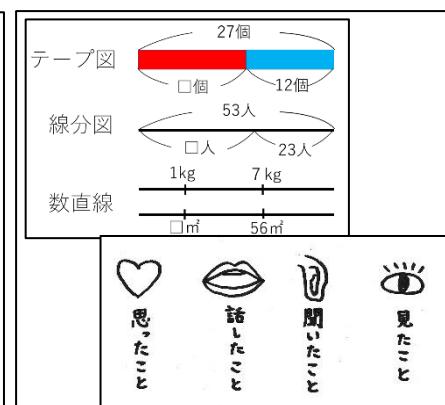
一人の発言を広めて共有する



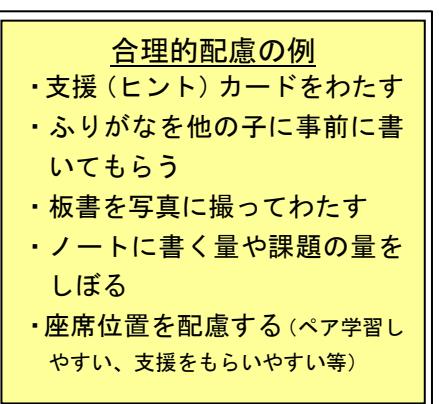
リレー発言で共有する



ノート鑑賞タイムで共有する



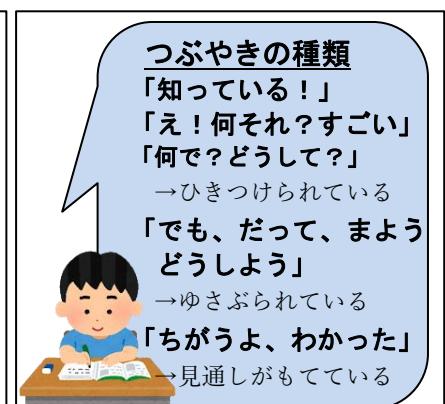
考えを図や絵で共有する



合理的配慮で負担をそろえる



「みんな言葉」で共有する



つぶやきを拾って共有する

(2) 「特別支援教育」の視点

その他、「分かった・できた」を実感させる授業

ポイントは、「少しづつ足場をかけながら成功体験を積み重ねる」です。

「分かった、できた」と授業の中で実感できることは、外国人児童生徒等にはもちろん、全ての児童生徒にとって何よりの喜びです。小さな成功であっても先生や友達から認められることで、本人も達成感・充実感を得ることができます。

The diagram illustrates three examples of teaching methods:

- コンパスで円を書こう** (How to draw a circle with a compass):
 - 針と鉛筆をそろえる
 - 空中でくるくる回す
 - 針を刺し鉛筆は浮かせて、くるくる回す
 - コンパスを傾けて③をやる
 - 円を書く
 A pink box contains five steps with corresponding images. Below it is a box titled "スモールステップでできたことを実感させる" (Feel a sense of achievement by doing small steps).
- 国語作文** (Japanese Language Composition):
 A yellow box shows the words "それから" (Then), "つぎに" (Next), and "はじめ" (First). To its right is a blue box titled "理科 実験・観察の手順" (Science Experiment and Observation Procedure) with the same sequence of words. Below them is a box titled "他の教科や場面で活用できたことを実感させる" (Feel a sense of achievement by applying it to other subjects and situations).
- 絵をかく** (Drawing):
 A yellow speech bubble says "○○さんは、絵をかくことが得意だから教えてください。" (○○, you're good at drawing, please teach me.). Below it is a blue speech bubble saying "絵のかき方を教えます。" (I will teach you how to draw.). An illustration shows a teacher and three children holding up their drawings. Below this is a box titled "得意なこと好きなことなどを人に教え、成功を実感させる" (Teach your strengths and hobbies to others to feel a sense of success).

The diagram illustrates two examples of teaching methods:

- 導入：こん虫かこん虫でないかゲーム** (Introduction: Is it a caterpillar or not? Game):
 A pink box shows a game board with insects labeled "チョウ" (Butterfly), "レインボ" (Rainbow), and "クモ" (Spider). Below it is a green box with the text "終末：こん虫かこん虫でないかゲーム 分かるようになりましたか？" (End: Is it a caterpillar or not? Game. Do you understand now?). Below this is a box titled "前と同じ活動を行うことで、自分の成長を実感させる" (Feel a sense of growth by performing the same activities).
- 発表練習** (Presentation Practice):
 A yellow speech bubble says "○○さんの発表は、前よりも上手になりましたね。" (○○'s presentation is better than before). Another yellow speech bubble says "○○さんは発表の練習をたくさんしていました。" (○○ practiced a lot for the presentation). An illustration shows a teacher and students. Below this is a box titled "友達から認められることで実感させる" (Feel a sense of achievement by being recognized by friends).

下記のリンクには、ユニバーサルデザインに関する支援が多数掲載されています。

・釧路教育研究センター「やってみよう！学級、授業のUD化ハンドブック」

<https://www.city.kushiro.lg.jp/common/000137586.pdf>

・さいたま市教育委員会「ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた 授業づくりガイドブック」

https://www.city.saitama.jp/003/002/017/005/p073418_d/fil/universaldesign-jugyo.pdf

(3) 「JSL」の視点

「3 日本語と教科の統合学習」で紹介したJSLは特別な授業というわけではなく、在籍学級の通常の授業に取り入れることができます。(1)やさしい日本語の視点(2)特別支援教育の視点と合わせて支援を取り入れることで、外国人児童生徒等だけでなく、日本人児童生徒にも分かりやすく参加しやすい、ユニバーサルデザイン化された授業になります。ここでは小学校国語と理科・中学校英語を例として取り上げますが、どの学年・教科でもJSLの視点を取り入れることが可能です。



JSL授業づくりのステップ

1 「教科の目標」と「日本語の目標」を考える

教科の目標を決めたら、それを達成するためにはどんな日本語の力が必要かを考えます。

必要な語彙や表現をおさえ、できるだけ具体的な言葉で「日本語の目標」を決めましょう。

教科の目標

主人公の気持ちの変化を想像できる。



日本語の目標

「～だった気持ちが、だんだん～になりました。」を使って、気持ちの変化を表現できる。

2 理解支援を考える

日本語の目標を決めて文型に言葉を当てはめるだけでは目標の達成とはなりません。その日本語の意味・考え方を理解でき、表現できて目標達成となります。

その理解のために右のような様々な支援が考えられます。特に有効な支援は実物による操作や視覚化を豊富にすることです。

理解支援

一例です

- ◎ 言い換える：知っている言葉や母語などで言い換える。
- ◎ 視覚化する：実物、模型、絵、写真、図などを利用する。
- ◎ 操作する：実物、模型、絵カードなどを動かす。
- ◎ 例示する：具体的な例を示す。
- ◎ 対比させる：対になることばや事柄を示す。
- ◎ 明示する：課題、手順、見通し、流れなどを明確に示す。
- ◎ 簡略化する：いくつかに分割、重要な点に絞り簡略化する。
- ◎ 整理する：分かりやすく整理して示す。
- ◎ 補足する：背景知識やことば、情報などを補う。
- ◎ 関連付ける：事柄の関係性（因果関係、順次性等）を示す。

3 表現支援を考える

意味・考え方を理解できたら、日本語で表現させましょう。

その表現のために右のような様々な支援が考えられます。言葉だけでは難しい場合は、絵や写真、動作等も表現を補う手段として活用することも大切です。

表現支援

一例です

- ◎ 選択肢を示す：語彙や表現の例を示し、選ばせる。
- ◎ 表現方法を示す：言葉以外（絵、写真、図等）での表現を促す。
- ◎ モデルを示す：文や文章レベルで発表や作文のモデルを示す。
- ◎ キーワードを示す：キーワードを示し、表現内容を構成させる。
- ◎ 対話で引き出す：やりとりで表現したい内容を引き出す。
- ◎ 動作化する：実物や体などを動かしながら表現させる。
- ◎ 母語で表現させる：母語で表現させ、それを日本語で表現させる

理解支援・表現支援例は、文部科学省「学校教育におけるJSLカリキュラム」中学校版を参考にして作成しました。

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/10/06/1235804_002.pdf

他の日本語支援として、記憶支援、自律支援、情意支援もあります。

(3) 「JSL」の視点

小学校6年 国語科 「やまなし」

教科の目標

「やまなし」の二つの場面の情景を叙述（色彩語、オノマトペ、比喻）から想像できる。

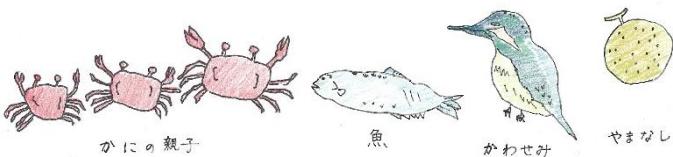
日本語の目標

「かわせみ」と「やまなし」が「～のようにとびこんだ」「～に感じる」などを使ったり、動作や音を使ったりして比較・表現できる。

①「かわせみ」と「やまなし」が、川にとびこんだ様子を読む

めあて：「かわせみ」と「やまなし」が、川に
とびこんだ様子を表現しよう。

内容の大筋をつかむために、リライト教材・紙芝居・ペーパーサートなどを使う。



②「かわせみ」と「やまなし」が、川にとびこんだ様子を水槽で再現する

叙述の違いをヒントにして再現する。



③「かわせみ」と「やまなし」が、川にとびこんだ様子を表現する

言葉、絵、動作、音など自分なりの方法で表現する。ペアやグループで対話させることも表現支援になる。

まとめ：「かわせみ」

こわい、つめたい、くらい感じ

「やまなし」

やさしい、あたたかい、あかるい感じ

支援

【理解支援】

リライト（p. 34 参照）で、内容やキーワードはそのまま、やさしい日本語に言い換える。

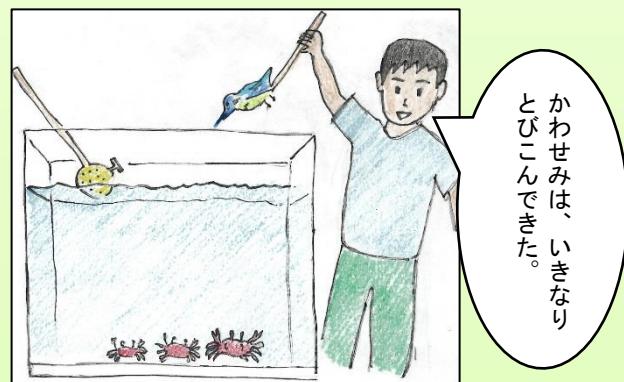
にわかに天井に白いあわ
が立つて、青光りのまる
できらぎらする鉄砲だま
のようなものが、いきな
り飛びこんできました。

きゆうに 天井に 白い
あわが、立ちました。

青く きらぎらで 鉄砲の
たまのようなものが、とび
こんで きました。

【理解支援】

粘土などで模型を作って操作し、視覚化する。



【表現支援】

対話しながら音・色などキーワードを示す

やさしい感じはどうっち?
かわせみ? やまなし?
音は? 色は?



(3) 「JSL」の視点

小学校3年 理科 「こん虫の体」

教科の目標

いろいろな虫の体を比較・分類することで、こん虫の体のつくりを理解し、表現できる。

日本語の目標

「～は、あたま・むね・はらでできていて、足が6本あります。だからこん虫です。」等の表現を使って、いろいろな虫の体を比較してこん虫かどうかを理解し、表現できる。

①いろいろな虫の体のつくりに課題をもつ

体のつくりに視点をあて「いろいろな虫の仲間分け」ゲームを行う。

絵カードを一人一人が操作しながら比較・分類する。
(PC上で絵カードを操作してもよい。)

めあて：いろいろな虫の体のつくりをしらべよう。

②どのような視点で仲間分けしたかを表現する

こん虫の特徴につながる視点をキーワードとして取り上げ、色をぬらせる。

キーワード 足の数 体の部分

(あたま、むね、はら)

③こん虫の体のつくりを調べる

チョウやトンボやクモの実物を見て実際に体のつくりがどうなっているかを調べる。実物がなければ写真や動画を見る。チョウと同じ体のつくりの仲間をこん虫ということをモデル文を使って知らせる。

④こん虫の体のつくりをまとめる

「あたま、むね、はら」というキーワードやモデル文を使って絵や言葉でまとめる。

まとめ：こん虫は、あたま・むね・はらでできていて、むねに足が6本あります。

⑤こん虫の体のつくりを理解し、表現する

「こん虫かこん虫でないか」ゲームを行う。こん虫の体のきまりを使って、最初と違う虫で理解・表現できるか確かめる。

「ダンゴムシは足が6本ではないのでこん虫ではない」「バッタはあたま・むね・はらでできていて、むねに足が6本あるのでこん虫です」

支援

【理解支援】絵カードを操作する
いろいろな虫を例示して対比させる

いろいろな虫の仲間分けゲーム



【表現支援】キーワードを示す



【理解支援】実物を見せて視覚化する



【表現支援】キーワードやモデル文を示す

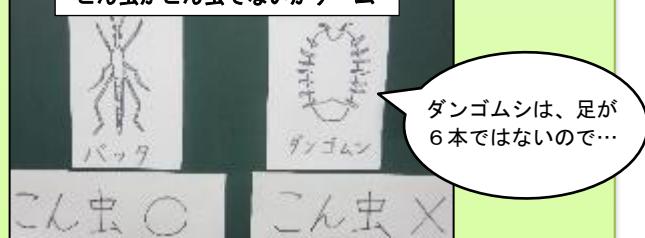
モデル文

こん虫は、() () () でできていて、むねに足が() 本あります。

【理解支援・表現支援】

絵カードを操作する 対話で引き出す

こん虫かこん虫でないかゲーム



(3) 「JSL」の視点

中学校1年 英語科 「助動詞 can」

アルファベットを使用する言語（ポルトガル語やスペイン語等）を母語とする生徒にとっては、英語は親しみやすく、日本語支援がなくても参加しやすい教科といえるでしょう。しかし母語も日本語も不十分な生徒にとっては、JSLのような日本語支援は欠かせないと言えるでしょう。

教科の目標

can の使い方を理解し、できること・できないことを表現できる。

日本語の目標



can, can't を使って「～は～できる・～は～できない」という日本語を表現できる。

- ①先生や生徒が、けん玉を実演しながら、
I can (can't) play kendama. と言うことで
can が「できる」を表すことを理解する。

实物を用意して実演する。そして次の人へ
Can you play kendama? と言って交代する。

めあて：can, can't を使ってできること・
できないことを言ったり、聞いたりしよう。

- ②できること・できないことをモデル文と
絵カードを使って表現する。

日本語と対応させながら当てはめる。
I swim can. He can plays soccer.
などと、意図的に間違いを提示して
日本語との違いを意識させることも
理解支援になる。

- ③友達同士でできること・できないことを
聞き合って、表にまとめ、友達クイズを行なう。

指示カードの動作ができるか・できないか
友達同士で聞き合う。できること・できない
いことを表にまとめ、誰のことかを当てる
友達クイズをみんなで行なう。

まとめ：できること・できないこと
は can, can't を使って
表現することができる。

支援

【理解支援】 けん玉を実際に操作する

けん玉以外にも、スポーツや楽器など実演できる物を用意する。 can → ○ can't → × など表情やジェスチャーをつけて言う。



can

can't

【表現支援】

モデル文を示す

絵カードで選択肢を示す

モデル文

わたしは、泳ぐことができる。
I () ().
彼は、サッカーができる。
He () ().

絵カード

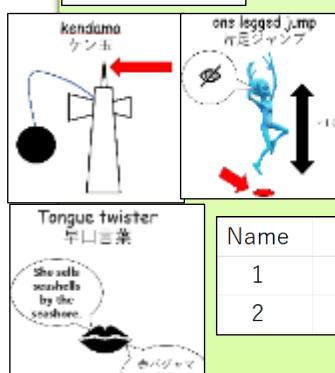


can

【理解支援・表現支援】

指示カードで視覚化する 出題する時は動作化する

指示カード



友達クイズ

She can play kendama.
She can't do tongue twister.
She can play the piano.
Who is she?

Name	けん玉	片足ジャンプ	早口言葉	ピアノ
1	○	×	×	○
2	×	○	×	○

5 ICTの活用

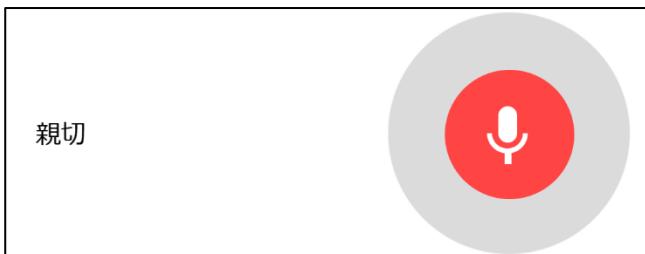
Google Workspace for Education を使い、ICT端末を活用した授業実践です。日本語の読み書きに困難のある外国人児童生徒等への個に応じた学習指導や支援ができます。

(1) 音声検索機能 (Microsoft 社、Google 社)

從来から音声翻訳機が使われていますが、パソコンを使って同じように活用できます。



- Google 社のウェブブラウザを立ち上げ、マイクアイコンをクリックします。



- 音声入力が始まるので、調べたい言葉を入力します。

※文章で音声入力もできますが、単語単位で入力する方がおすすめです。

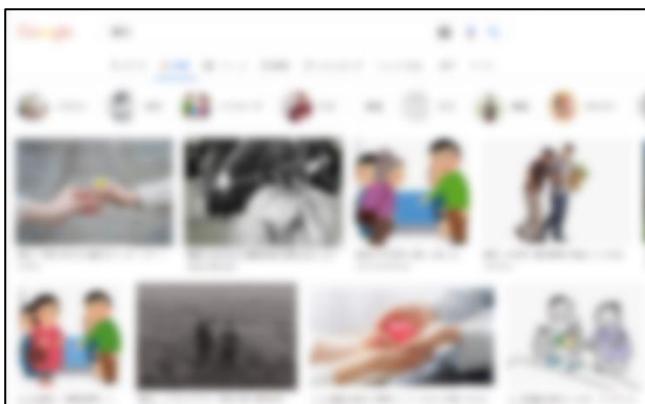


- 音声入力すると、図のようにその言葉の検索結果が表示されます。

- 日本語での説明が分からないようであれば、“画像”をクリックします。



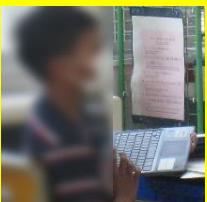
※検索した言葉を“画像”で調べることで、更に写真や図で言葉の意味を推測でき、理解支援に活用が期待できます。



本ガイドブックに掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。Google、Google Workspace for Education、Google ドキュメント、Google ウェブストア、Chrome、Google 翻訳は、Google LLC の商標又は登録商標です。App Store は、Apple Inc. の商標又は登録商標です。

○実践授業での使用例

国語科の授業「新聞を作ろう」において記事取材のため日本語教室の先生に質問練習をする場面です。

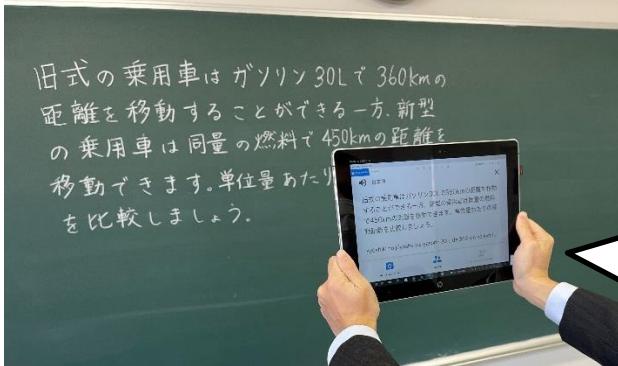
学習活動 ・予想される児童の反応、▼手立て	○指導支援のポイント
1 前時までの内容を確認する ○実際のインタビュー場面を見る。 <ul style="list-style-type: none"> 「考えた質問が言えるかな」 「順番どおりできるかな」 ▼「インタビューのルールを確認してみましょう」 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> インタビューのルール </div> 	○これまでの学習してきたことを踏まえ、本時では日本語教室の先生にインタビューする。 <div style="background-color: yellow; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 実際のインタビュー場面 動画を提示することで児童はインタビューのイメージがしやすくなる。  </div> ○児童がインタビューの流れや、やり方を意識して円滑にインタビューできるように、「インタビューのルール」を示す。
[めあて] インタビューをして、聞きたいことをたずねよう。	
2 インタビューの練習をする。 ○ 絵や写真などの補助を使う。 <ul style="list-style-type: none"> 「写真があると分かりやすですね」 ○ どのような所に気を付けながらインタビューをすればよいか、考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> 「もう少し大きい声で話してもらえますか。」 「もう一度ゆっくり話してもらえますか。」 ▼「絵や図を見せながら質問してみよう。」 ○ 児童のインタビューの姿を動画で撮影し、後で振り返りに活かす。	○児童が思ったことや感じたことで、上手くいった質問や話し方を伝え合えるようにする。 <div style="background-color: yellow; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 相手への質問の様子  <ul style="list-style-type: none"> あらかじめ撮影しておいた写真を使って相手に質問する。 </div> ↑ I C T 端末を持ち、写真の説明をする児童の様子
3 インタビューをして取材する。 ○質問して分からぬ言葉をタブレットで調べる。 <ul style="list-style-type: none"> 「インタビューのルール」に沿ってインタビューを進めよう。 友達が言えなくて困っていたら助けてあげよう。 ▼「分からぬ言葉があれば音声検索してみよう。」 「次はあれを聞きたいな。」 「友達が言えずに困ってたら助けてあげたいな。」 	○インタビューにつまずく児童を先生が説明を加えて支援し、児童が最後まで自信をもってインタビューをできるように見守る。 <div style="background-color: yellow; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> 音声検索  <ul style="list-style-type: none"> 分からなかつた言葉を音声検索して活用している。 誰もその言葉を知らなかつたら音声検索をしてみる。 </div> ↑ I C T 端末に向かって音声検索している様子
4 インタビューを振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 「インタビューのルール」に沿って活動できた。 大きなハッキリした声で質問したほうがよい。 I C T 端末で絵や図を見せて質問すると伝わる。 ▼「インタビューした動画を見て気付いたことを発表してみましょう。」 	○相手の言葉を詳しく知りたい。もっと質問してみようと、楽しみながら活動を行う。 ○インタビュー動画を見て、児童が自分の話し方や姿をどう感じ取ったか、意見を全体共有する。 ○インタビューで聞き取った事柄を基に新聞作りをすることを伝え、児童が新聞作りを主体的に取り組むことができるようになる。 ○言葉だけでなく、ジェスチャー、絵や図を見せると相手に伝わりやすいことを助言する。

展開「3 インタビューして取材する。」は実際のインタビュー場面です。外国人児童生徒等が相手にインタビューするとき、自分の知らない言葉に出合います。このようなとき、前ページに示した「音声検索機能」を活用しましょう。

外国人児童生徒等は相手に質問したいという気持ちをもっています。この気持ちを大切にしながら学校生活を送ることができるように、先生が支援していきましょう。

(2) カメラ機能

日本語で書くことに困難のある外国人児童生徒等への支援です。授業中板書を写すことに時間がかかり、授業時間内にノートを全て取りきれないときがあります。ぜひ、カメラ機能を使って、板書を撮る工夫をしていきましょう。



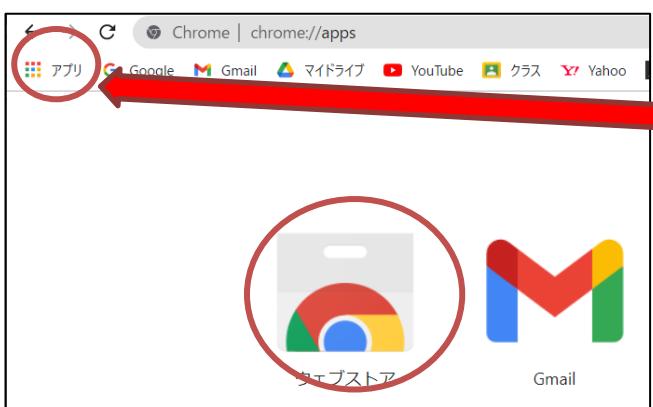
- 教科をフォルダ毎に分けたり、ファイル名に日付等を入力したりしてデータ管理をしましょう。
例：20210715 こくご.jpg 等
 - 普段の生活でも整理整頓を心がける意識を養う。

(3) 文字読上げ、文字起こし機能

○文字読上げ機能

日本語を読むことに困難のある外国人児童生徒等への支援です。各社のICT端末の文字の読み上げ機能を活用し、内容理解につなげましょう。

(例) Google 社の文字読上げの方法



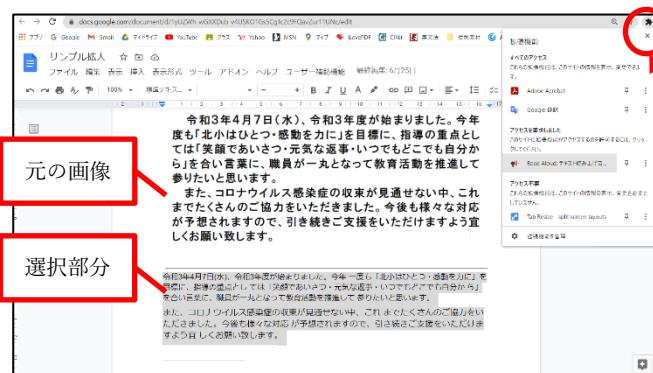
- ・ウェブブラウザを立ち上げ、矢印の“アプリ”アイコンをクリックすると、“ウェブストア”が表示されます。
 - 検索バーに直接“ウェブストア”と入力しても開きます。
 - ・ウェブストアを開きます。

ウェブストアは市町村によって使用制限がある場合があります。



- ・ウェブストアページの検索欄に、“テキスト読み上げ”と入力します。

Chrome に追加



- ドキュメント、ウェブページ等、読上げたい部分をマウスで選択します。
選択後、ウィンドウ右上の  マークをクリックして、アプリを選びます。

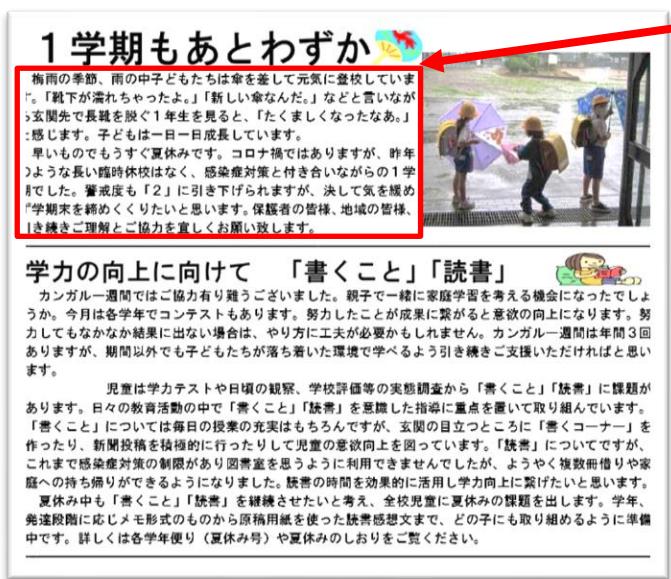
※選択せずに、 マークをクリックすると、表示されている文字すべてを読み上げてしまいます。

○文字起こし機能

画像から文字を解析して「文字起こし」をする機能を使うとデジタル化が効率的に行われ、そのデータをいろいろな用途に活用することができます。

(例) Google 社の文書作成ソフトを利用した文字起こしの方法

- ・カメラを使って写真を撮ります。その写真データを Google 社のクラウドへアップロードしてください。



原文

梅雨の季節、雨の中子どもたちは傘を差して元気に登校しています。「靴下が濡れちゃったよ。」「新しい傘なんだ。」などと言いながら玄関先で長靴を脱ぐ1年生を見ると、「たくましくなったなあ。」と感じます。子どもは一日一日成長しています。

早いものでもうすぐ夏休みです。コロナ禍ではありますが、昨年のような長い臨時休校ではなく、感染症対策と付き合いながらの1学期でした。警戒度も「2」に引き下げられますが、決して気を緩めず学期末を締めくくりたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、引き続きご理解とご協力を宜しくお願い致します。

文字起こし後

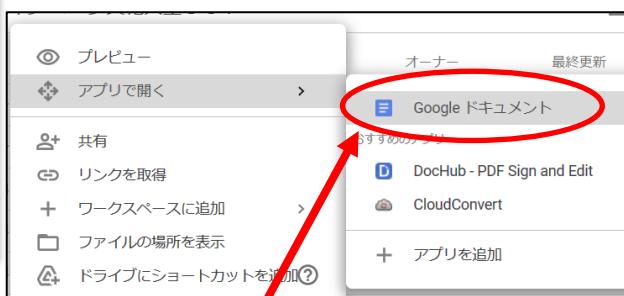
梅雨の季節、雨の中子どもたちは傘を差して元気に登校しています。「靴下が濡れちゃったよ。」「新しい傘なんだ。」などと言いながら玄関先で長靴を脱ぐ1年生を見ると、「たくましくなったなあ。」と感じます。子どもは一日一日成長しています。

早いものでもうすぐ夏休みです。コロナ禍ではありますが、昨年のような長い臨時休校ではなく、感染症対策と付き合いながらの1学期でした。警戒度も「2」に引き下げられますが、決して気を緩めず学期末を締めくくりたいと思います。保護者の皆様、地域の皆様、引き続きご理解とご協力を宜しくお願い致します。

※今回は左図のこの場所をカメラで撮って文字起こしします。

1ページ全部を撮ってから文字起こしをするより、必要な部分だけを撮って使う方がおすすめです。

- ・マイドライブ上にある、先ほどのファイルを右クリックします。すると、左下図のメニューが表されます。



- ・“アプリで開く”にマウスポインタを合わせると、“Google ドキュメント”が表示されるので、クリックします。
- ・解析されたデータがドキュメントに文字起こしされて表示されます。
- ・上は元の画像で、その下に“文字起こし”された文章が作られます。



この文字起こし解析は、高い精度のデジタル化（文字化）が期待できます。例えば、文字起こし機能と読み上げ機能を合わせて使えば、読み書きに困難のある外国人児童生徒等への支援になります。教科書を文字起こしして、自分だけのデジタル教科書を作ることができます。

前ページまで紹介した操作は Apple 社製品でも基本的な操作は同じです。ここでは Apple 社の I C T 端末を使って基本的な操作を紹介します。

○音声検索機能



- ・文字入力欄にあるマイクをタップすると音声入力が可能になります。
- ・マイクに向かって話しかけると文字が出力されるので、画像検索をします。
- ・操作は Google 社の I C T 端末と同様です。

○文字読み上げ機能



- ・Apple 社の I C T 端末の機能の一つです。
- ・「設定」→「アクセシビリティ」→「読み上げコンテンツ」をタップします。
- ・「画面の読み上げ」のチェックをオンにして、設定を完了します。



- ・ウェブブラウザや読み上げたい文章を長押しタップで選択します。
- ・吹き出しのリストが表示され、「読み上げ」をタップすると読み上げが開始します。
- ・日本語だけでなく、多言語読み上げに対応しています。
- ・外国人児童生徒等が日本語や漢字の読みに困ったとき、活用が期待できます。



○文字起こし機能



- 無料の「Google 翻訳」アプリを使用します。ない場合は「App Store」からインストールしてください。
- テキストを入力したり、カメラや音声入力から文字起こしが可能なアプリです。
- このアプリがあれば、文字読み上げ機能もあるので非常に便利なアプリです。
- 「翻訳」アプリを入れておけば、翻訳したい日本語を長押しタップすることで、表示される吹き出しから翻訳することができるようになります。



（左）入力言語、（右）出力言語を選択

“カメラ入力”写真等を使い文字を読み込めます

- 既に文字化された文章をリアルタイムに翻訳する機能もあるので、外国人児童生徒等が母語を使って日本語を理解するのに活用できます。例えば、お知らせプリントなどを保護者に理解してもらうとき、翻訳して活用することが期待できます。

朝晩涼しくなり、過ごしやすい季節になりました。
まぶしい日差しの中、登校してくる子どもたちの額にはまだ、かすかに光る汗が見えます。10月に入り、やっと通常の時間帯による学校生活が始まりました。校庭や元気一冊の子どもたちの姿、秋の爽やかさが伝わってきます。
合のだろう、としみじみ思います。

2学期の始まりを休校と分散登校で選んだ子どもたちにとって、心の切り替えは離しかったようです。玄関や校門でのあいさつも心なか元気がありませんでした。そこで、緊急事態宣言の期間は職員が各所に立って子どもたちをあいさつで出迎えようということになりました。教室の入り口、玄関、校門、通学路、、、、これを受けて6年生全員が進んで校門に立ちあいさつ運動を始めました。その様子を見て下学年が「自分たちもやろう！」と参加。まさに「気づき、考え、実行する」というIRCの精神の具現化でたいへん嬉しい思いです。校門では元気なあいさつが聞こえますが、通学路での様子はまだまだ目指す「笑顔であいさつ」の姿には届いていません。繰り返し指導を続けて参ります。

9月の朝の様子

9月中は校舎に入る前に体温
玄関でまず「おはようございます」
検温してもらったら「ありがとうございます」

自動的に「あいさつ運動」

Google 翻訳

日本語 英語

朝晩涼しくなり、過ごしやすい季節になりました。
まぶしい日差しの中、登校してくる子どもたちの額にはまだ、かすかに光る汗が見えます10月に入り、

Asaban suzushiku nari, sugoshi yasui kisetsu ni narimash...

カメラ入力 会話 音声文字変換

英語

It became cool in the morning and evening, and it became a comfortable season. In the bright sunshine, the foreheads of the children who come to school still have a faint glowing sweat.

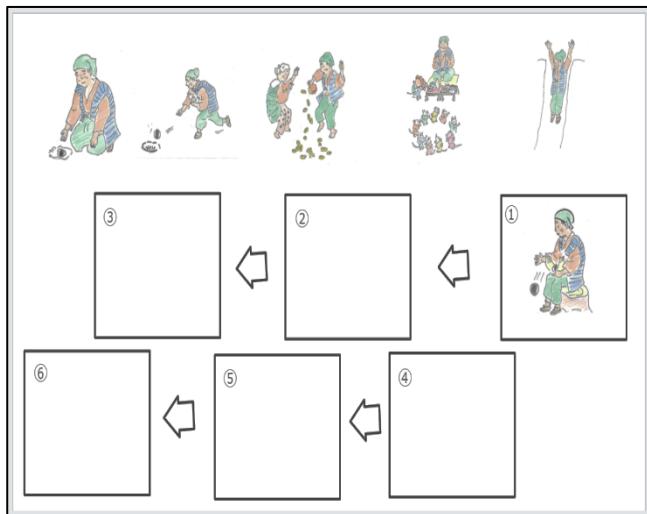
プリントをカメラで入力後、指示に従ってハイライトをタップすると、右図のように文字起こしされます。スピーカーアイコンをクリックしたら音声が流れます。翻訳も同時にされるので多言語への出力が可能になります。

- 他にも、情報通信研究機構（NICT）作成の「VoiceTra(ボイストラ)」という無料アプリもあります。



(4) デジタルホワイトボード

各社学習支援ソフトには協働的な学びに活用できるデジタルホワイトボードがあります。



理解支援での使い方

国語科の「おむすびころりん」の物語の順番に沿って画像を並べ替える学習です。教師の読む「おむすびころりん」の話の内容に沿って、デジタルホワイトボードの絵を並び替えます。グループで話し合いながら行うのもよいでしょう。
※この活動は、外国人児童生徒等が先生の範読する物語の内容を理解したり、グループ活動を通して他者との協働性を高めたりすることにつながります。他にも家庭科で調理手順を並べ替えたり、体育で体操の順番などを考えることに活用ができます。

本ガイドブック「2 日本語中期指導プログラム お話を作ろう」(p. 16) で紹介をしています。

表現支援での使い方

算数科の文章題の解き方をキーボードを使わずに入力する方法も考えられます。自分の考えを直接タブレットに書き込みます。解き方を相手に説明することで、学習理解や意欲の向上につながります。また、1つのファイルを複数人で共有できる機能があるので、もし自分が分からなくなても、クリック1つで他者の考え方を手本として見たり、進度を確認したりすることもできます。

(5) 学習支援サイト

誰もが簡単に利用できる学習支援サイトの紹介です。動画は視覚的効果が高いので、外国人児童生徒等の個別最適な学びに大変有効です。

- 群馬県教育委員会 小学生向けオンラインサポート授業動画
県教委作成の全学年全教科の学習支援動画です。

https://www.pref.gunma.jp/07/b21g_00653.html



- 群馬県教育委員会 中学生向けオンラインサポート授業動画
県教委作成の全学年全教科の学習支援動画です。

https://www.pref.gunma.jp/07/b21g_00654.html



- 黒田先生と一緒に学ぼう！

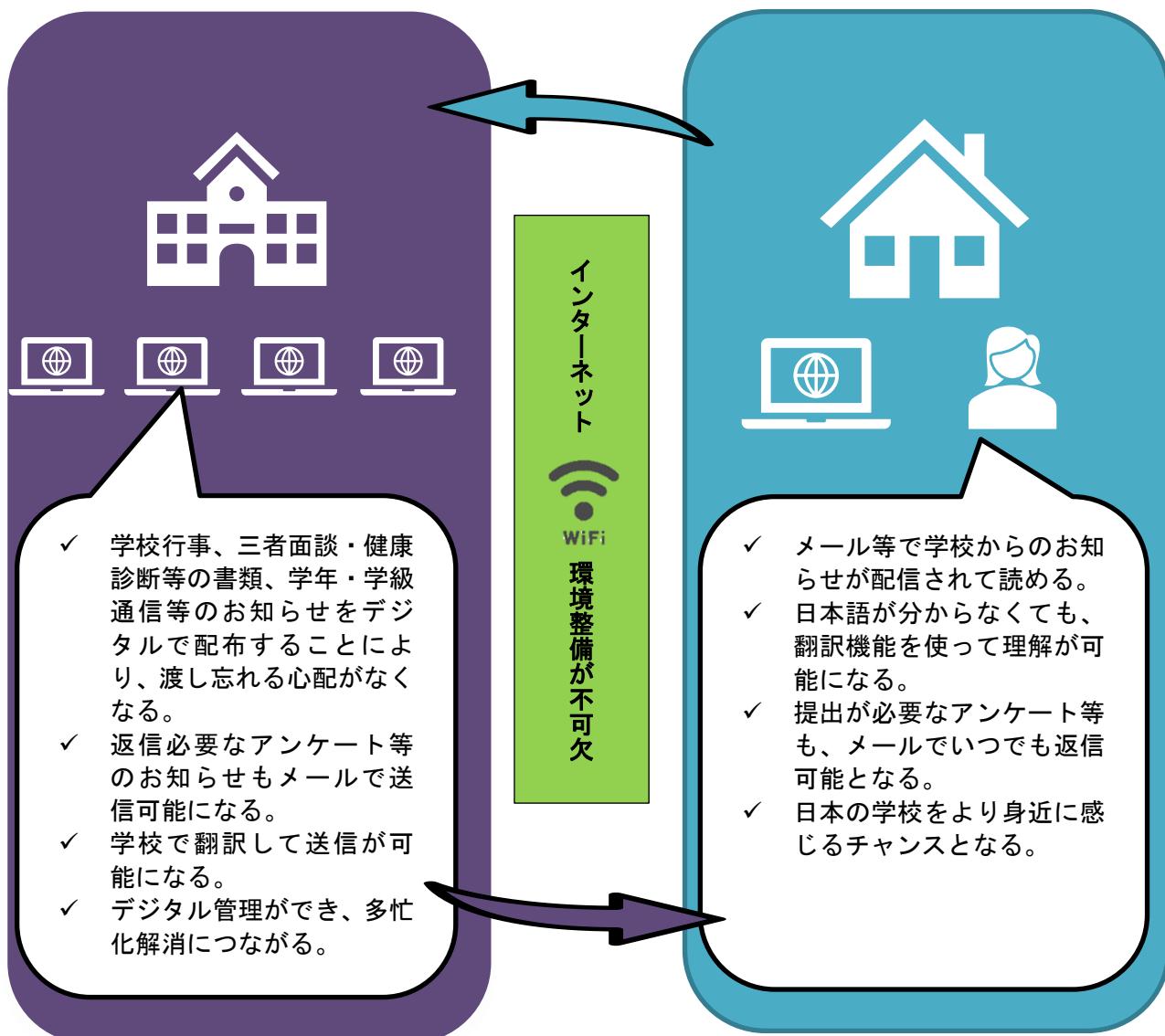
小学校算数科全般の学習支援動画です。

<https://www.youtube.com/channel/UC14TfsrborNybgc3jZvU9A>



(6) 今後のＩＣＴ活用

学習以外でもＩＣＴの活用場面が考えられます。端末を家に持ち帰ることができる環境が整備されることで、学校・学年便り等の諸連絡や家庭連絡を円滑に行うことができます。翻訳ソフトを活用すると、日本語のお便りを外国人児童生徒等の保護者の母語に変換が容易になります。外国人児童生徒等の保護者が気軽に問い合わせができる体制を整えることで、学校と家庭の連携がより円滑になります。



○まとめ

外国人児童生徒等にとって、便利なＩＣＴ機能

- 音声検索機能
- カメラ機能
- 文字読み上げ機能
- 文章の文字起こし機能
- デジタルホワイトボード（考え方の可視化・共有化）
- 学習支援サイト



6 学級づくり

授業づくりとともに大切なのが学級づくりです。学級の雰囲気が肯定的だったり、協力的だったりすれば、学習での困難が多少あっても児童生徒同士での教え合いが可能になり学力向上につながります。逆に学級の雰囲気が否定的だったり、排他的だったりすると、外国人児童生徒等は学習に意欲的な気持ちで臨めません。つまり授業づくりと学級づくりは車の両輪のような関係と言えるでしょう。ここでは、日常生活や特別活動、各教科の中でできる多文化共生教育について紹介します。

(1) 日常生活での多文化共生

言葉も文化も違う外国人児童生徒等だからといって、先生が気負い過ぎる必要はありません。他の児童生徒に接する場合と同じように明るく温かく接することが基本です。もし、困っている様子があれば、先生だけではなく、学級の児童生徒と共に自分達にできることはないかを考えてみましょう。そのように考えること自体が生きた多文化共生教育になります。

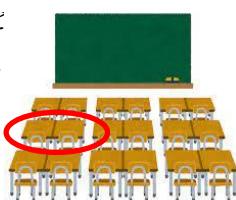


日常生活で配慮すること 受け入れ初期の配慮について「ぐんぐんガイド」p.59~64を参照

座席位置

教卓に近い前から2列目くらいがよいでしょう。先生のサポートが受けやすく、周りの友達の様子も見られます。

また、学級全員の名前を書いた座席表を渡しておくと友達の名前を早く覚えやすくなるでしょう。



休み時間

言葉を必要としない遊びやスポーツでコミュニケーションをとるのがよいでしょう。また、その外国人児童生徒等の好きなことや得意なことを早めに把握することが必要です。



係や当番活動

本人の希望や実態によりますが、始めは他の児童生徒と一緒に行うと安心して取り組みます。同じ国の出身者や関わり方の上手な児童生徒に自然な形でサポートをしてもらえるとよいでしょう。



文化の違い

持ち物や習慣など外国と日本の学校生活にはたくさんの違いがあります。一方的に日本の文化を押し付けるのではなく、相手の国の文化も理解して、時には保護者も交えて、話し合うことが必要です。



ほめる・認める

授業と同様にどんなに小さなことでもほめて認めてあげましょう。「できていないことよりも「できていること」に先生が目を向ける、価値付けることで周りの児童生徒の間にも認め合う、温かい雰囲気が作られます。「すごいね」「やったね」「できたね」などのほめ言葉を意識して使うことが必要です。

(2) エンカウンターでの多文化共生



ここからは日本人児童生徒も含めてみんなで考える多文化共生教育の紹介です。多文化共生を充実させるには日本人側の意識も変えていかなければなりません。「違いを認める力」や「他者と関わる力」を育てるきっかけとなるエンカウンターの活動です。これらの活動では道徳の授業と同じようにいかに自分事として捉えて、日常生活で行動できるかが大切です。「楽しかった」「おもしろかった」という感想だけで終わらせないように「自分だったらどうか」「自分には何ができるか」という視点で継続的に取り組みましょう。

「4つの窓」

説明：「今から質問をします。4つの窓に書いてある答えのうち自分に一番ぴったりの答えの窓のところに行きましょう。

あなたの好きな色は？（赤・青・黄・白）
あなたの好きな動物は？（ライオン、キリン、イヌ、ネコ）
あなたの好きな食べ物は？（カレーライス、すし、ハンバーグ、焼きそば）

活動：①好きな色が書いてある窓に行く。
②好きな色が同じ人同士で理由を話す。
③好きな動物、食べ物、季節などの質問を同じようにする。
④全部同じ答えになった人はいるか探す。
⑤全部違う答えになった人はいるか探す。

共有：活動をしてみてどう思ったか。

ポイント

※自分と友達の考えは、違うことを認める。

「私はわたし」

説明：全員に紙を配り、名前を書かせる。

「自分がみんなと違っていること、自分だけ違う体験をしていることを次のように3つ書いてみましょう。後で読みます。」

わたしは、みんなと違って○○です。
例：5回引っ越ししたことがある
ピーマンもにんじんも好き

活動：①各自で書く。
②全員の紙を集めること。
③先生が読み、全員で誰のことか当てる。
④答え合わせをする。

共有：他人と違うことはどう思ったか。

ポイント

※他人と違うことは恥ずかしいことではなく、素晴らしいことだと考えを転換させる。

※先生は読む際に思いやりのあるコメントを付け加える。先生自身も参加する。

「無人島 SOS」

説明：「船が遭難し、無人島にたどりつけました。救助が来るまで生き延びるために必要な物を次の中から順番に8つ決めてください。」

マッチ、鍋、望遠鏡、おの、ナイフとフォーク、アルコール、ロープ、海図、テント、毛布、時計、ラジオ、薬、裁縫道具、カメラ、タオル、鉛筆と紙

活動：①まず自分一人で順番に8つ決める。
②次にペアで自分の意見と理由を話す。
③それからペアで話し合って8つ決める。
④全体で発表する。

⑤もう一度ペアで話し合って8つ決める。

共有：ペアやみんなで話し合ってどう思ったか。

ポイント

※自分と友達の考えは、違うことを認める。

※友達の考えを尊重しつつ、自分の考えを話す。

「エンカウンターで学級が変わる（小学校編）」（図書文化社）を参考にしました。この他にも自己理解・他者理解などを深めるためのエンカウンターがたくさん掲載されています。中学校編もあり、Part 3まで発刊されています。



(3) 特別活動・総合的な学習の時間・各教科での多文化共生

多文化共生教育には、その国について知ることが大切です。学級活動や児童生徒会活動、総合的な学習の時間で、外国について調べる活動が考えられます。児童生徒に身近な3つのF (Food : 食べ物、Fashion : 服、Festival : 祭り) をテーマとして調べる方法があります。その他にあいさつ、国旗、スポーツ、名所(世界遺産)などのテーマも考えられます。

その際、これらはその国の一側面であり、先入観や偏見を与えないように気をつけましょう。特にその国出身やその国にルーツをもつ児童生徒等がいる場合は、その子の気持ちを汲み取り、自分の国に誇りをもつことができるよう指導しましょう。



日本人も全員が着物を着ているわけではないし、毎日お寿司を食べているわけではありませんよね。

給食で世界各国の料理を取り入れた例

世界の料理をご紹介！

1月は世界各地の料理が給食に登場します。給食に以前から登場しているメニューから、今回ははじめて登場する料理、読むことも難しい名前の料理までいろいろあります。どんなお料理なのか簡単にご紹介します。



イタリア 13日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ベペロンチーノ (パスタの国イタリアで有名なスパゲティ) にんにくととうがらしをオリーブオイルでじっくりいためて香りをいたす料理です。 パンナコッタ (「生クリームをつめる」という意味のミルクデザート) 酸薬の詰んなエミンテ州で生まれたデザートです。給食では豆乳を使っています。
フィリピン 14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> チキンアボド (フィリピンの食卓の必需品) とりにくと野菜をしあわせビニガー(酢)でついために作ります。 フルーツサラダ (南洋のフルーツが豊富なフィリピンならではのデザート) 子どもの朝食やパーティーなどによく食べます。
台湾 (中華民国) 15日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ルーローハン (台湾の食堂でよくみかけるソーセージ) あましょっぱくにした豚肉をごはんにかけて食べる料理です。 きょうざースープ (もちろんの豆が特徴のスープ) 日本では煮きぎょうざがよく食べられます。台湾では水きょうざで食べることが多いです。
韓国 (大韓民国) 19日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ビビンバ (混ぜるめし) という意味の韓国代表料理) 日本でも有名な韓国料理です。ごはんと肉、野菜をよく混ぜることでおいしいになります。 キムチチゲ (辛い韓国のあたか鍋) キムチは韓国を代表する漬物です。チゲは韓国語で「鍋」という意味で、冬が寒い韓国ならではの料理です。
インド 22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> カーマルー (カレーの本場でも一般的なカレー料理) キマラとは「ひき肉」という意味で、ひき肉と細かくした野菜が入っているところが特徴のカレーです。 にんじんサラダ (手切りのにんじんを使った南インドのサラダ)

- カナダ
27日(水)
- ・カーメンのクリームペイントが多くされるカナダの魁料理を食べるそうです。
- ・フーティン (カナダにて) フライドポテトにチーズ
- ロシア
29日(金)
- ・ボーケストロガノフ (ロシアの牛肉と玉ねぎ、人参料理です。給食です)
- ・オリヴィエサラダ (サイドメニュー) お肉と野菜を角切りに

世界の料理 フィリピン



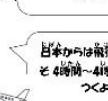
今日は、世界のお料理 (チキンアボド、フルーツサラダ) です。

フィリピンってどんな国

国名：フィリピン共和国
首都：マニラ
面積：約 29 万 9,400 km²
言葉：タガログ語



約 1,100 という点の島々から成っています。



料理に挑戦してみよう

世界には食材も味付けもお料理の方法のいろいろあってみて、世界を食べて感じてみましょう。

料理レシピ紹介 洋風おでん

作り方

- 具材を一口大に切る。(大きめでもよ)
- かつお節でだしをとる。
- だし汁で大根、にんじん、じゃがいも、

フィリピン料理ってどんな料理

フィリピン料理は、中国やスペイン、アメリカの食文化の影響を受けたものが多いです。
また美しい国のために、カロリーを消費するからなのか甘い味付けを好み人が多く、お酒を使いやすい味付けにするお料理が多いそうです。
主食は日本と同じでお米を食べるそうです。お米はタガログ語で「カニン」といいます。



チキンアボドとフルーツサラダってどんな料理？

世界各国のあいさつを掲示した例



愛知県国際交流協会

国際理解教育教材：世界の国を知る・世界の国から学ぶ 「わたしたちの地球と未来」

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/index2.html> には、世界 120 か国情報が豊富に掲載されています。その国について深く知ることができます。



多文化共生教育は、全ての教育活動の中で行われるものとされています。社会科や外国語科は、国際理解教育と関連が深い教科ですが、その他の教科の中でも国際理解や国際貢献と関連する内容があります。例えば、理科の地球環境やエネルギー問題、家庭科の世界の衣食住、音楽科や図工（美術）科の世界の作品の鑑賞、道徳科の国際理解・国際親善の内容などです。これらの内容を扱うときには多文化共生の視点を意識して指導できることでしょう。

JICA 地球ひろば 「国際理解教育の実践事例集・指導案」

https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/case/primary_school.html

には、各教科の中で行う国際理解教育の例が約 100 例掲載されています。

学級での多文化共生へ

児童生徒の適応状況（時期）にあった指導

それぞれの状況（時期）に応じた配慮をすることが求められます。

（1）自己表現が難しく、不安と期待が入り混じっている時期

- ・学級での注目度が高く、級友も興味をもって関わろうとする。
- ・情緒的、身体的に不安定な面もあるため、先生は学級の様子を観察し、適宜声をかけたり、常に笑顔で対応したりすることが求められる。また、保護者と学校生活、家庭生活のことなどを話し合い、信頼関係を深める必要がある。

（2）学級での居場所を見付けようとする時期

- ・日常会話は支障なくでき、級友と一緒に行動ができるようになる。
- ・先生は当該児童生徒の個性（母国での様子、趣味、性格、家庭での様子等）を把握し、人間関係の形成を支援することが求められる。
- ・特におとなしい児童生徒の場合は孤立しないよう居場所を作る必要がある。

（3）学級としての調和が求められ、とまどいときもある時期

- ・自ら積極的に発言できるようになる。一方で母国と日本の文化の違いにとまどい、級友とのトラブルや先生から注意を受ける場面も出てくる。
- ・本人に対しては理由やどう行動すべきなのかを分かるように指導したり、他の児童生徒に対しても互いに受け入れる開かれた心が育つように丁寧に指導したりする必要がある。エンカウンターや学級活動が有効なこともある。

（4）学級みんなで相互理解をしつつ学級の一員として活動できる時期

- ・本人も級友も互いのよさを認め合い、それぞれのよさを生かして成長する。
- ・教科学習や様々な場面で外国人児童生徒等がいることのメリットを感じることができる。さらに学校全体で多文化共生に取り組むなど、学級を超えた活動の場に広げていくことも考えられる。

文部科学省「外国人児童生徒受け入れの手引」を参考に作成

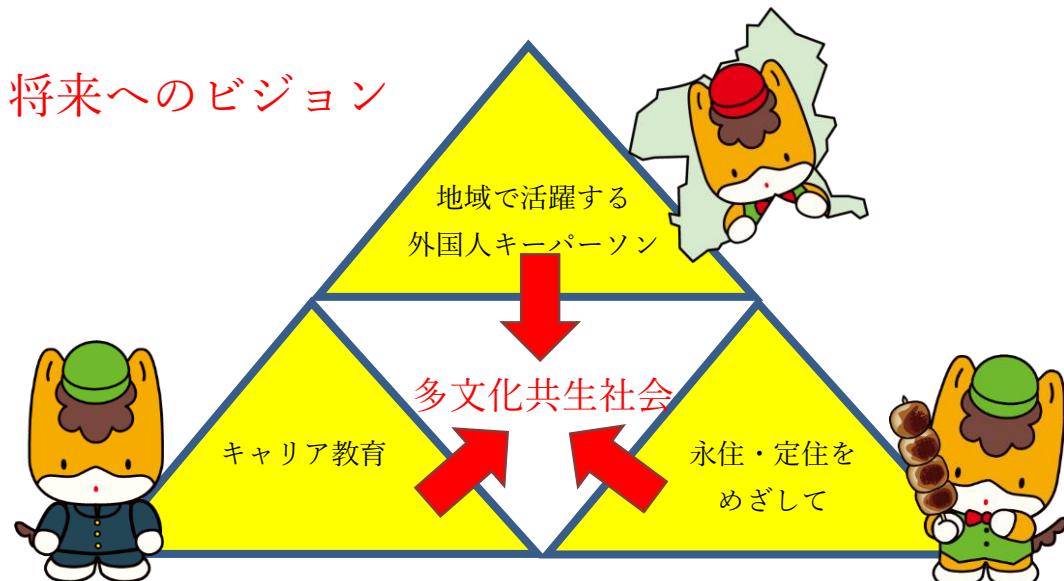
「個人への支援」と「周りへの支援」で
多文化共生教育を充実させましょう。



将来へのビジョン

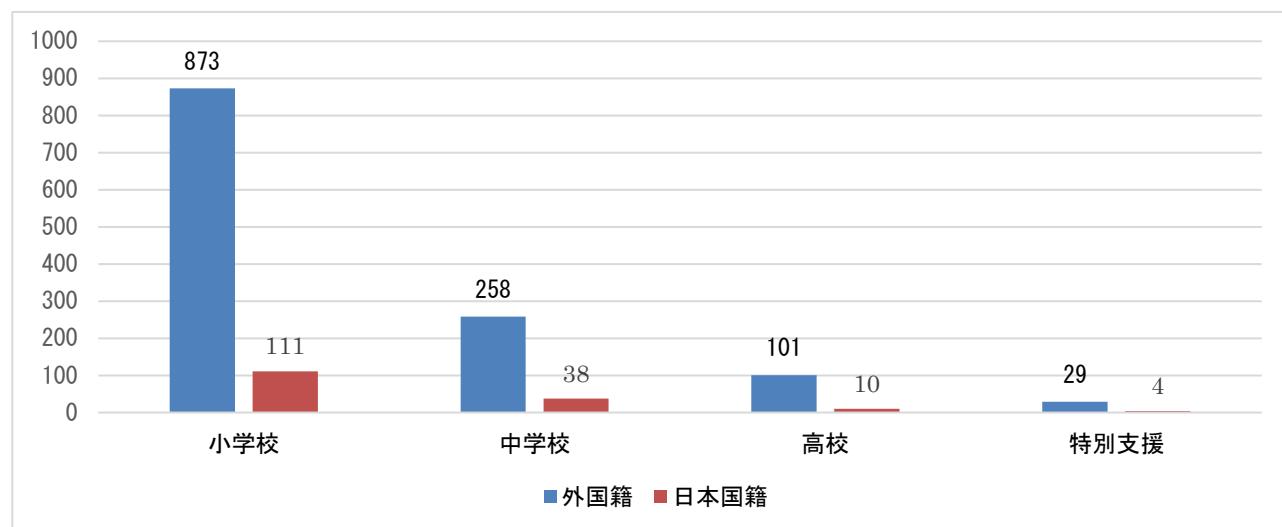
外国人児童生徒等が、来日する時期で彼らの未来が変わってきます。例えば、義務教育が9年間あるので、単純に10年後を見据えた時、小学1年生で来日した児童は16歳、中学1年生で来日した生徒は22歳になる年齢です。10年後、外国人児童生徒等だけでなく日本社会も人口問題、労働力問題等、変化が訪れます。

平成30（2018）年の出入国管理及び難民認定法の緩和により、外国人材の受け入れが増えていますが、長い目で見た時、どのような未来がやって来るのでしょうか。



近年、日本人の人口は減少する一方、外国人の入国は増加傾向にあります。なぜ、外国人の来日が増加しているのでしょうか。人口推移によると、団塊の世代降大量退職と、2040年以降の少子化問題と超高齢化社会があげられます（2040年問題）。そこで、目を向けられたのが外国人材の確保です。出入国管理及び難民認定法の規制緩和で外国人労働者の受け入れや彼らの家族の呼び寄せができるようになりました。

群馬県の場合、来日してきた外国人労働者の家族に、就学年齢に達している日本語指導の必要な外国籍児童生徒と日本国籍児童生徒は多くいます。彼らの多くは、子供の就学に見通しがつけば帰国を計画していますが、少なくとも数年は滞在が考えられます。高校進学や就職に対して学校は、外国人児童生徒等のそれぞれの多様性や特性に応じた進路指導を考えていかなくてはなりません。



文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況に関する調査（平成30年度）」の結果について（群馬県）

(1) キャリア教育

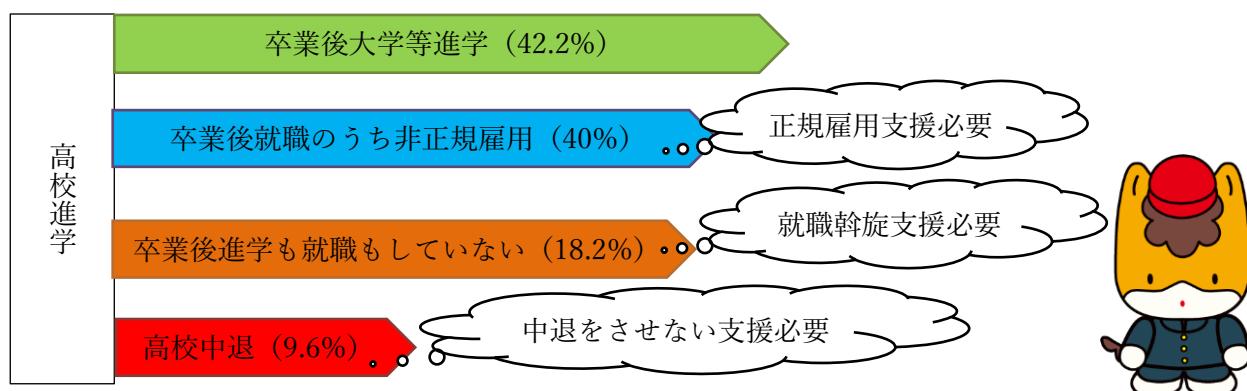
・ 進路の実態

高校受検を突破し、高校に進み、更に大学や専修学校などの教育機関等に進学をした外国人生徒等は、全国に 42.2% います。

高校卒業後、非正規雇用（40%、全体の 12% に相当しています）や、進学就職をしない生徒（18.2%）もいます。また、高校進学した生徒のうち、退学するデータもあります。

「日本語が理解できず授業についていけなかった」、「日本人高校生と日本語でのコミュニケーションが難しかった」、頼れる仲間がないためその環境で孤立したり、日本語習得が上手くいかなかったりする等の退学理由があります。全国の統計では、1.3% と低いですが、日本語指導が必要な生徒等の中退率は 9.6% になります。およそ 1 割の外国人生徒等が途中で高校を辞めてしまうのです。

義務教育での外国人児童生徒等への支援だけでなく、高校生となった外国人生徒等にも支援の手が必要になります。



・文部科学省総合教育政策局「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成 30 年度）」の結果について
表 8 平成 29 年度中の日本語指導が必要な高校生等の中退・進路状況

また、保護者も日本語があまり得意でないことや、日本の学校の仕組みが分からず、身近なモデルが不在で、将来のビジョンが持てない、などがあげられます。

一方、高校や大学まで進学すると、群馬県では下記の支援団体があります。支援情報を活用し、外国人生徒等にも周知していくとよいでしょう。

◆高校生・保護者向け就職支援サイト

- ・ジョブカフェぐんま

<https://wakamono.jp/gturnship/index.php>



- ・NPO KATARIBA

<https://www.katariba.or.jp/>



◆大学生向け就職支援サイト

- ・グローカル・ハタラクラスぐんまプロジェクト

<https://g1lp.hess.gunma-u.ac.jp/>



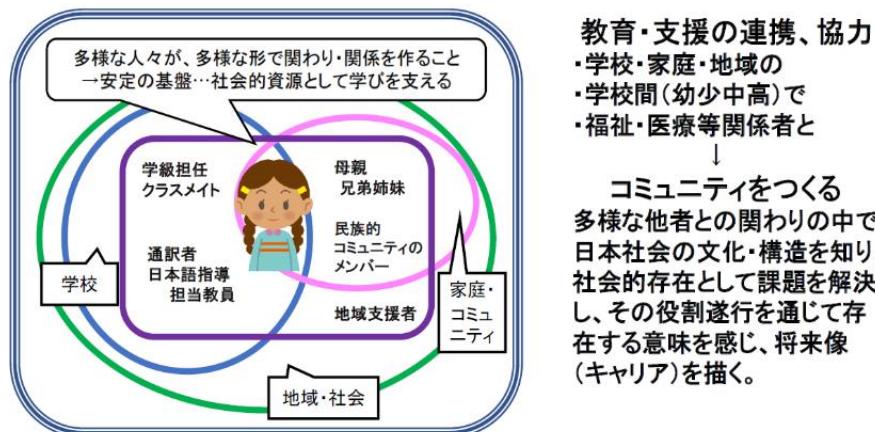
- ・Gターンガイドブック

<https://wakamono.jp/gturnship/index.php>



・自己アイデンティティ

生まれ育った国を離れたり、日本の中でも転居の多かったりする児童生徒がいます。このような児童生徒は、言葉だけでなく、人間関係やその土地の風習習慣になじめない等、心的ストレスを抱えてしまうことがあります。今まで培ってきた経験を日本での新しい学びに結び付けたり、児童生徒に社会参加をする力を育んだりすることが必要になってきます。そのために欠かせないことが、社会との関係をつくる教育コミュニティーへの参加です。外国人児童生徒等にも将来のビジョンをつかめるようになることが理想です。



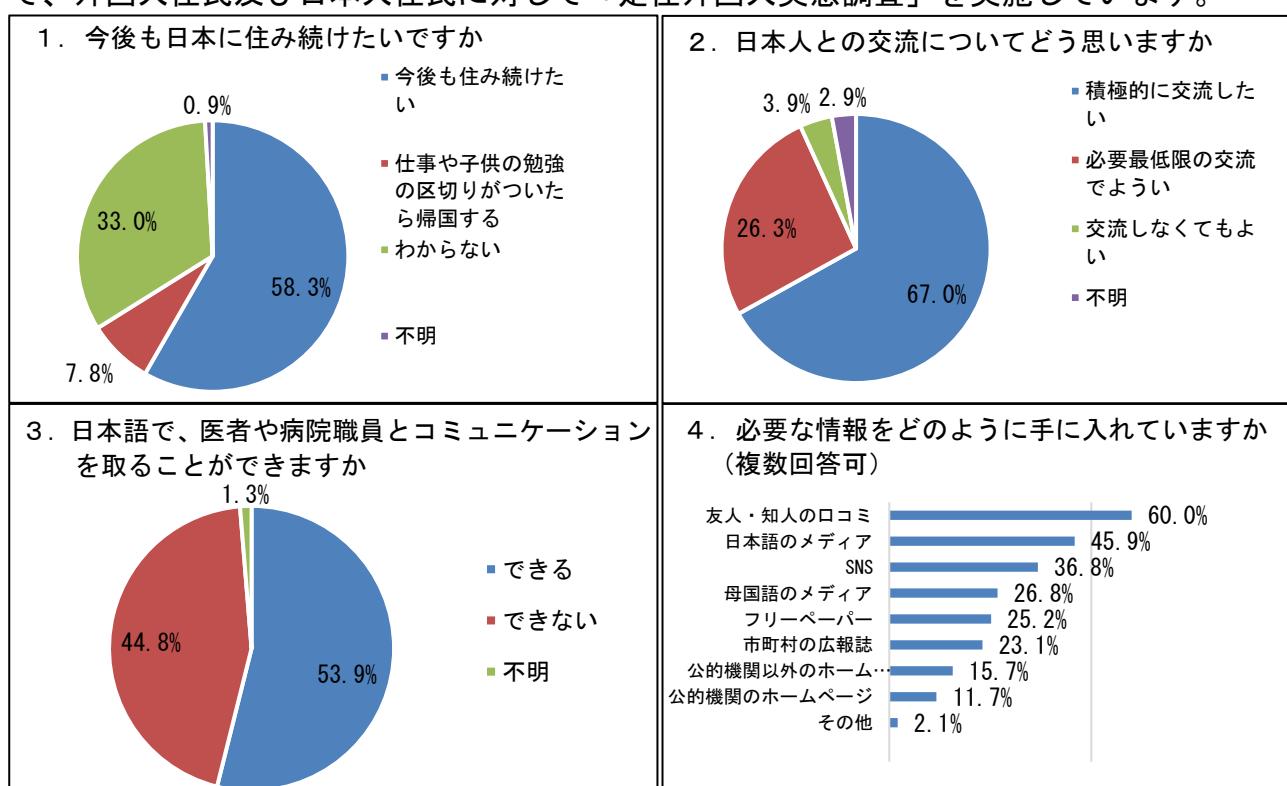
文部科学省

「外国人児童生徒等の教育のための動画コンテンツ・外国人児童生徒等のキャリア教育」

https://www.mext.go.jp/content/20210412-mxt_kyokoku-000014129_05.pdf

(2) 永住・定住をめざして

群馬県では、県民の多文化共生に関する意識やニーズを的確に把握することを目的として、外国人住民及び日本人住民に対して「定住外国人実態調査」を実施しています。



群馬県多文化共生・共創ポータルサイト 多文化共生推進指針・定住外国人実態調査より
https://www.pref.gunma.jp/04/c15g_00017.html

外国人の約6割が定住の意識があります。その地域の一員として生活したり、日本文化をもっと知りたかったりと、日本人との交流意識を高くもっています。

また、半数近い外国人は日本語で、医者や病院職員とコミュニケーションが取れないと回答しています。実際の場面では、通訳ができる人を連れて行ったり、身振り手振りで伝えたりしています。群馬県には医療通訳ボランティアが存在するので、その制度の周知に努めることが必要です。

必要な情報入手方法については「友人・知人」の割合が最も多く、次いで「日本語のメディア」「SNS」などが続いています。周囲の同じ国からの友人・知人からの口コミで情報を手に入れることが多いので、外国人同士の助け合いネットワークが強いと考えられます。それが原因で日本人との交流の場がもちづらいのかもしれません。

外国人材の活用は地域活性化に有効であり、今後は働きやすい・住みやすい環境を作っていくことが必要です。そのためには、日本人と外国人が共生する地域コミュニティづくりが重要です。群馬県では平成30年、群馬県多文化共生推進指針を改定し、外国人にとって住みやすい、働きやすい環境を政策に示しました。地域とのつながりを強くすることで、住民同士の信頼関係や人間関係もよりよくしていくことを目指しています。

群馬県教育委員会「ぐんまの外国につながる子供たちの学び応援サイト ハーモニー～学習・生活等支援コンテンツ ポータルサイト～」
http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?page_id=762



～学習・生活等支援コンテンツ ポータルサイト～

群馬県では、日本人と外国人が相互に理解し合い、安心して暮らせる多文化共生・共創社会の実現に向けて、重要な柱である「教育の充実」を図っています。
本サイトを活用していただくことが、その一助になっていくことを願っております。

このページの“継続した包括的支援のための「支援団体一覧表」”には子供たちだけでなく、大人や地域との異文化交流を勧める団体一覧があります。ぜひ、地域にある団体が何をしているか、ご覧いただけるとよいと思います。

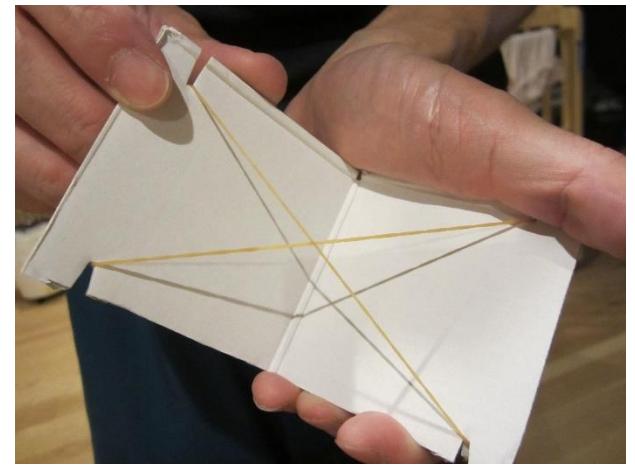
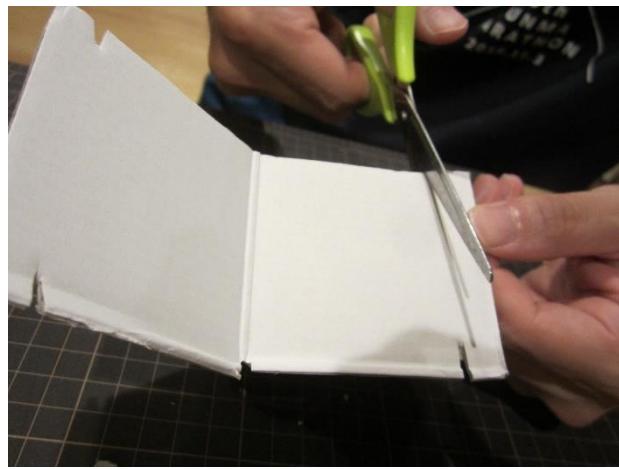
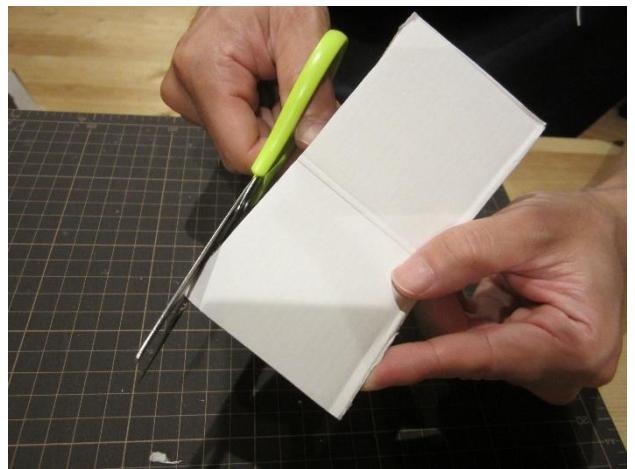
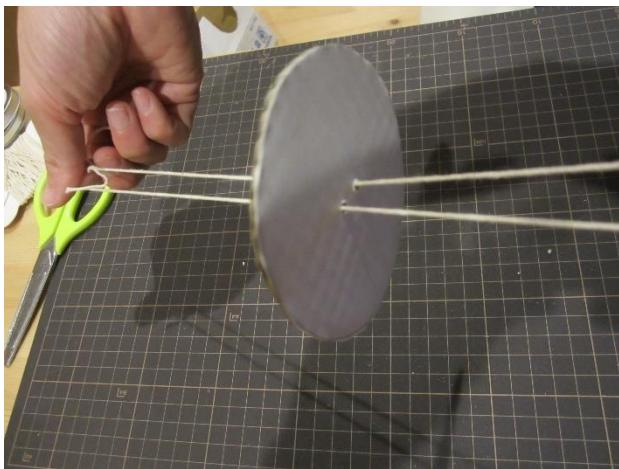
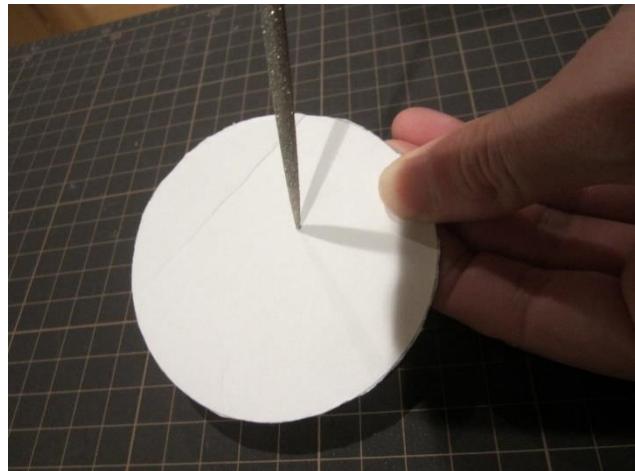
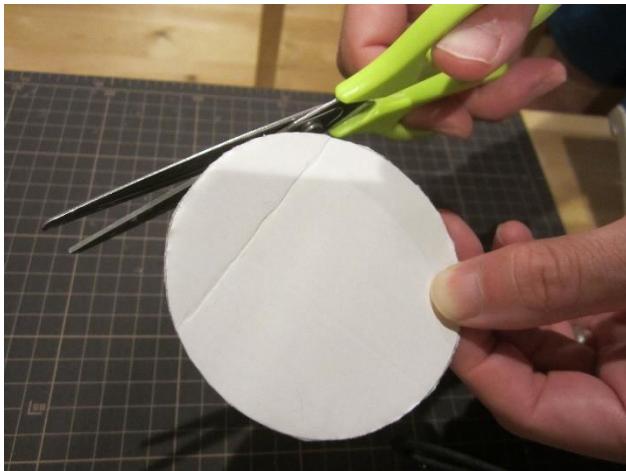
(3) 地域で活躍する外国人キーパーソン

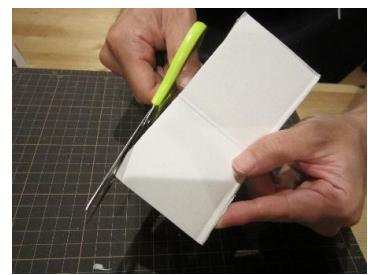
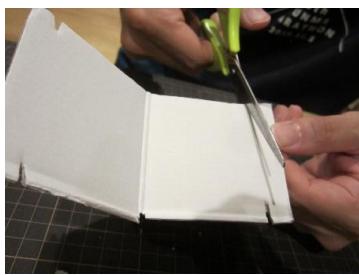
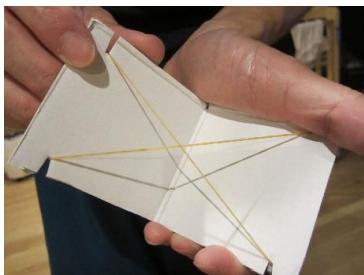
多くの団体が外国人児童生徒等へ支援を始めています。SDGsの「誰一人取り残さない」という理念のもと、子供にとっても住みやすい環境が整備されつつあります。外国人が日本の文化や習慣を理解し、また日本人が異文化理解をすることは、共によき友人として暮らしていく多文化共生の考えをもつことにつながっていきます。

将来、群馬で育った外国人児童生徒等が群馬県で就職して外国人材の代表として次世代の架け橋の担い手になることを願っています。

巻末「2 日本語中期（かけはしプログラム）」資料 「おもちゃを作ろう」の写真・ワークシート

[一覧に戻る](#)





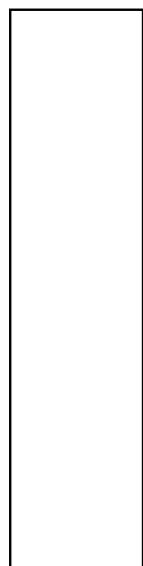
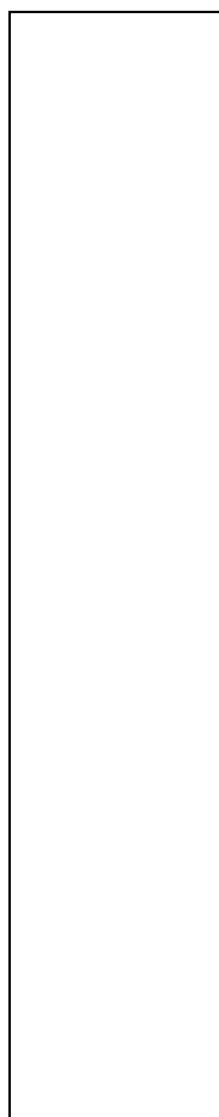
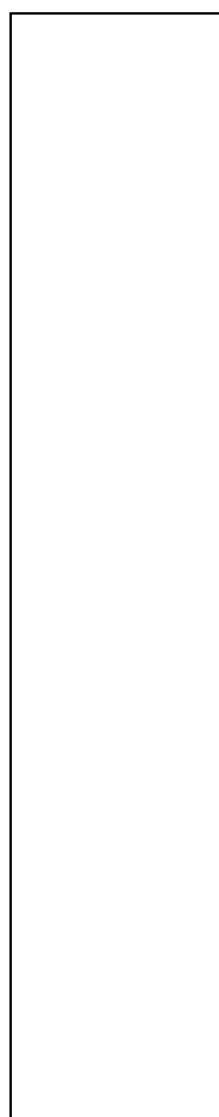
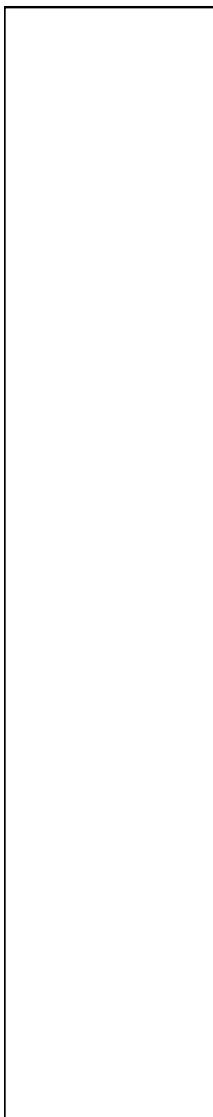
さいごに、

つぎに、

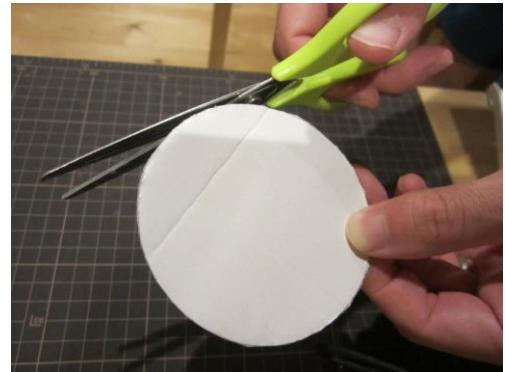
はじめに、

の作り方

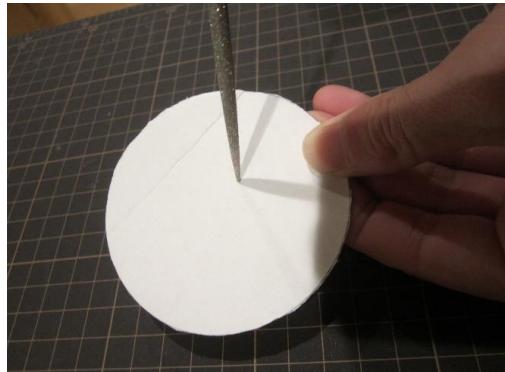
名前



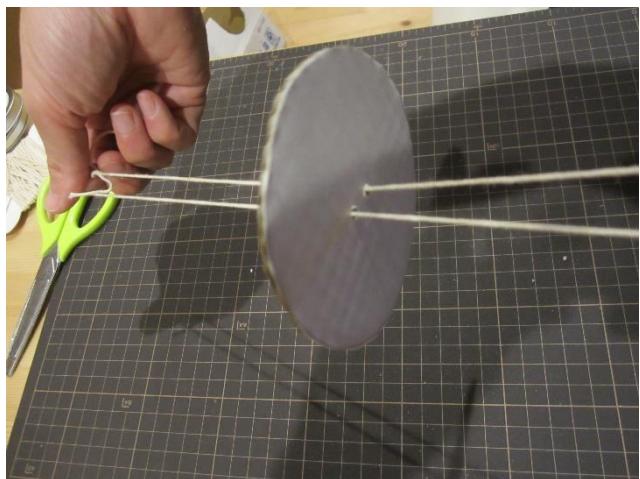
はじめに、紙をまるく切れます。



つぎに、紙にあなを2つあけます。

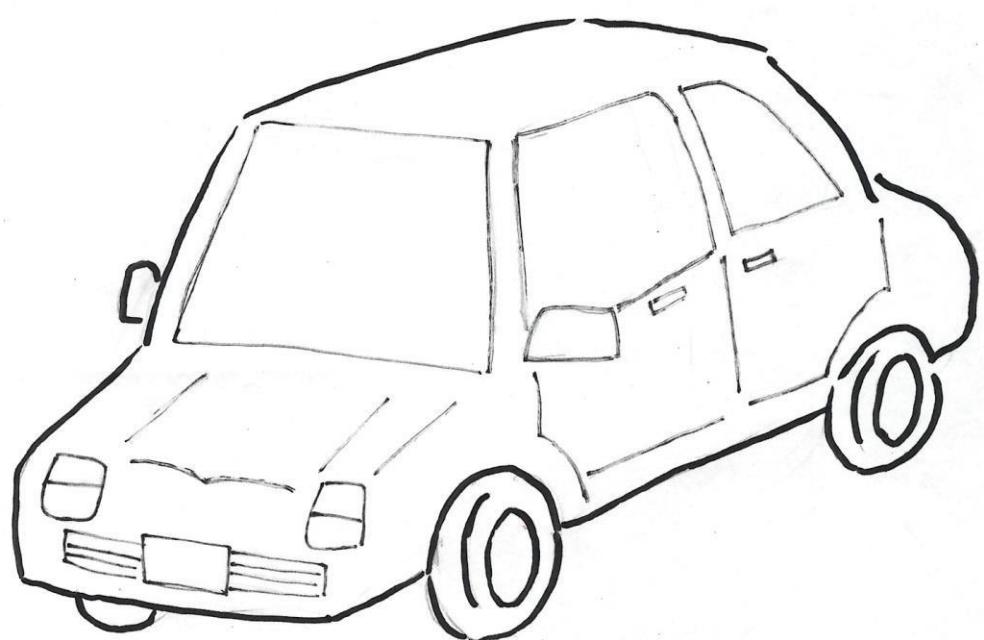
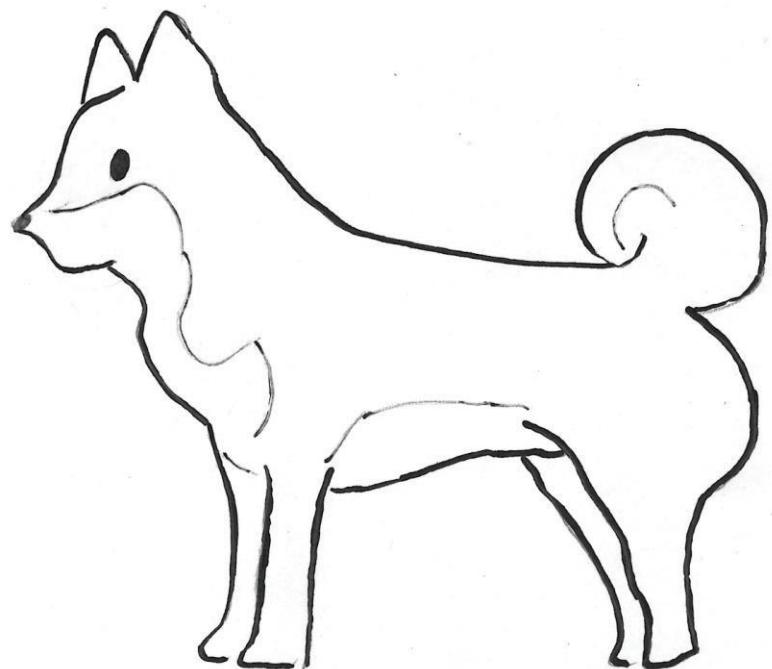


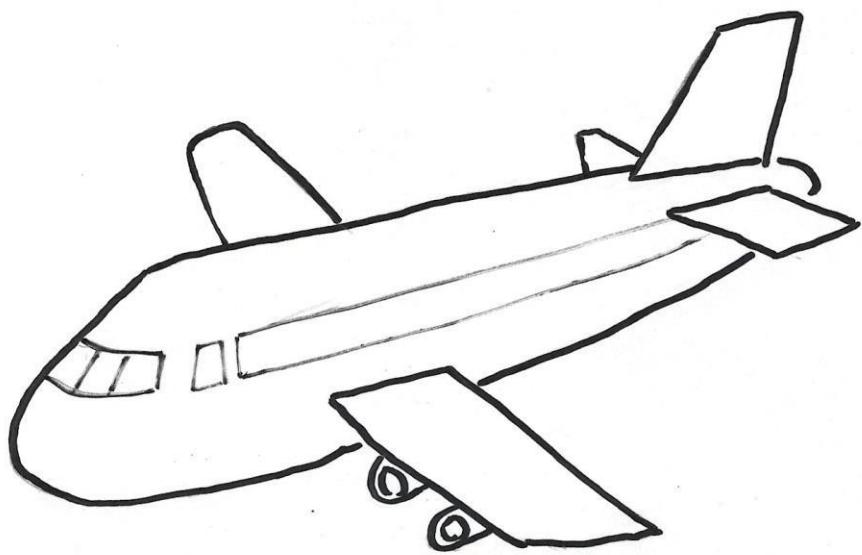
さじごに、ひもをあなに通して、むすびます。



「観察をしよう」のペーパーサート

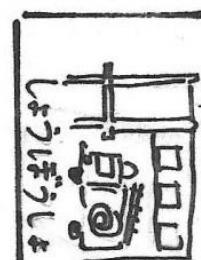
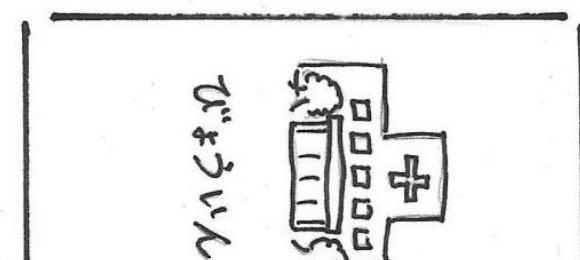
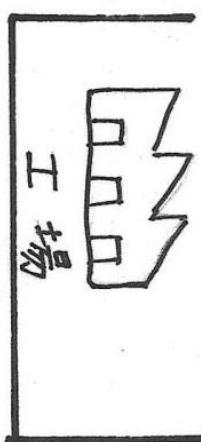
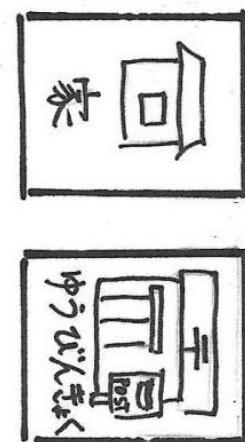
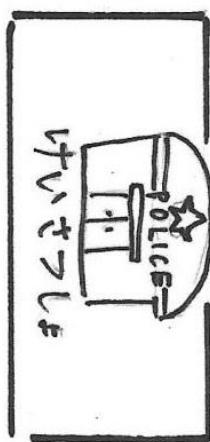
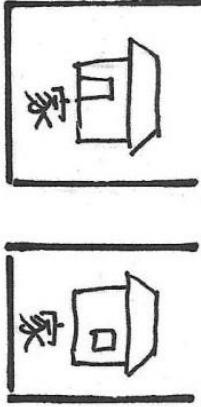
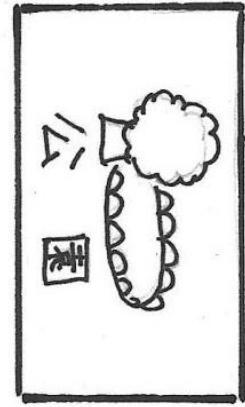
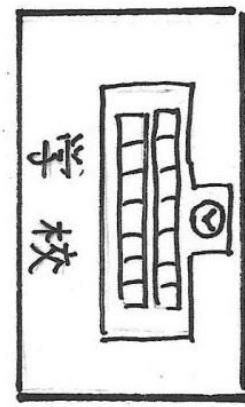
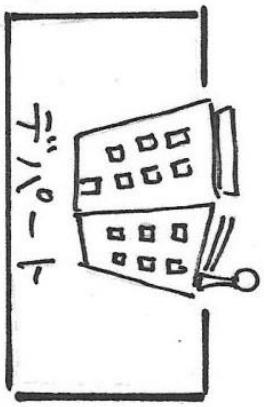
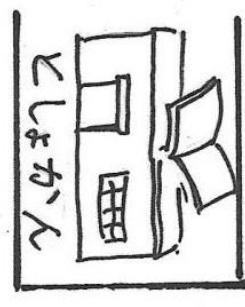
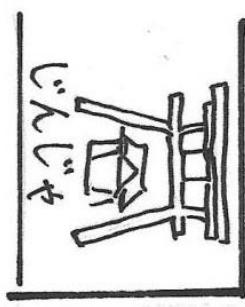
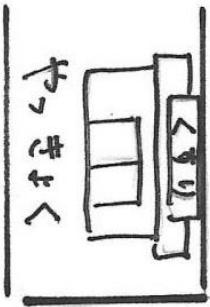
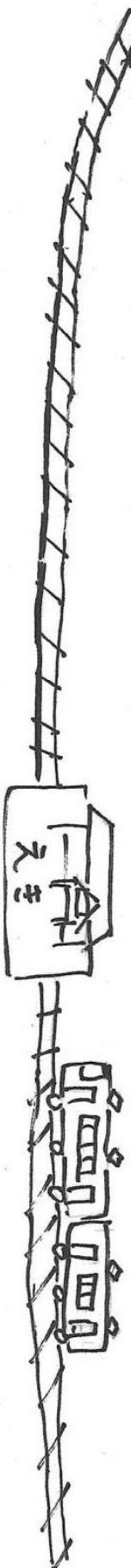
[一覧に戻る](#)

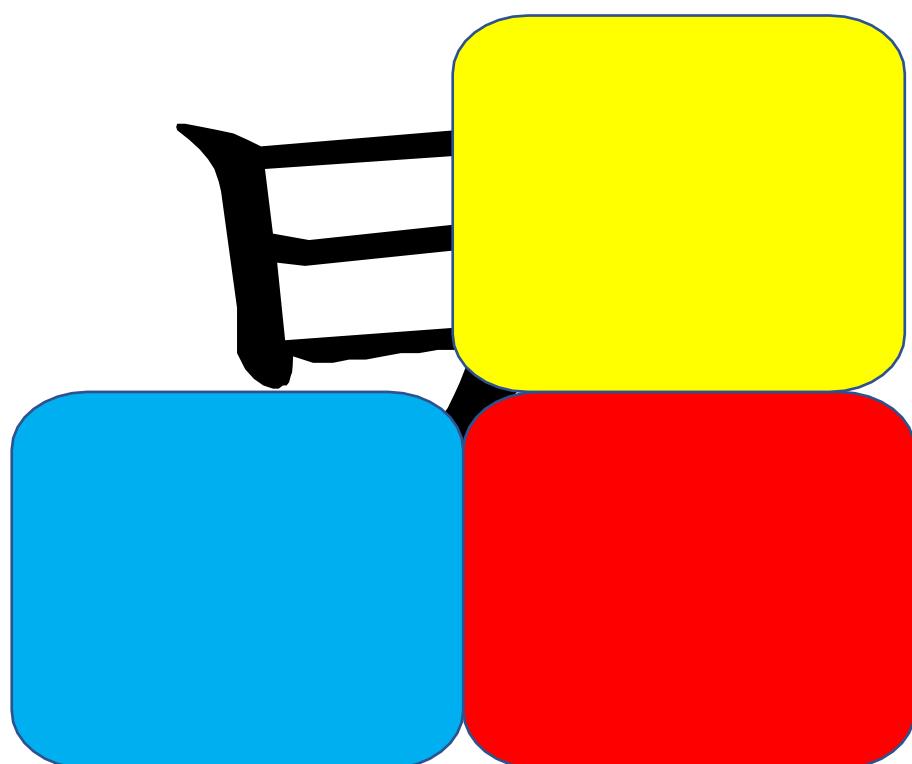
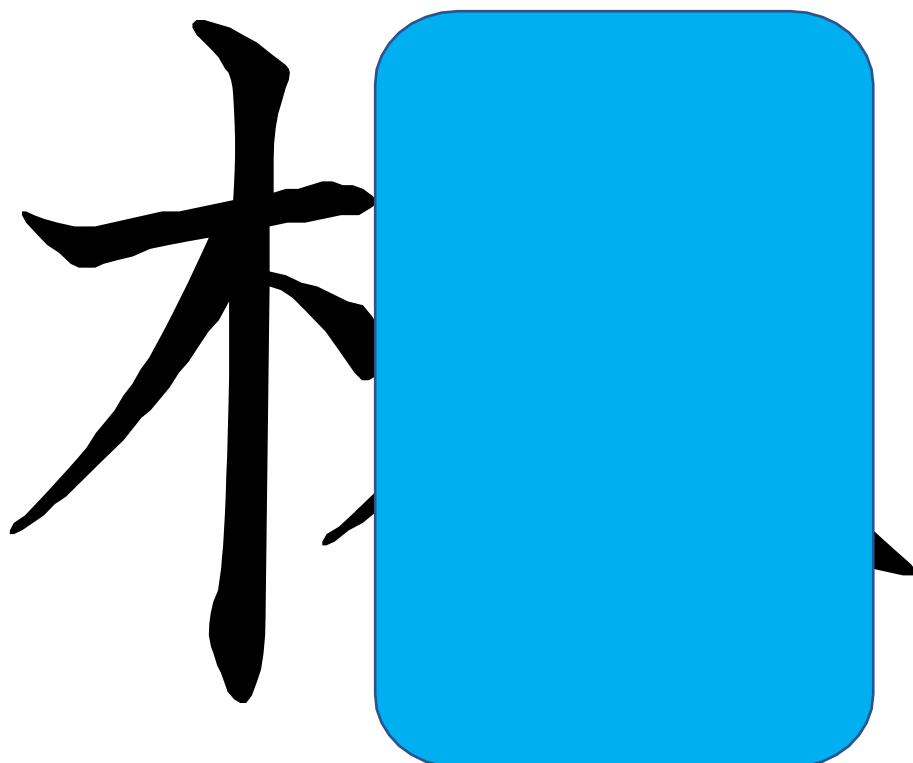




「道案内をしよう」の地図

[一覧に戻る](#)





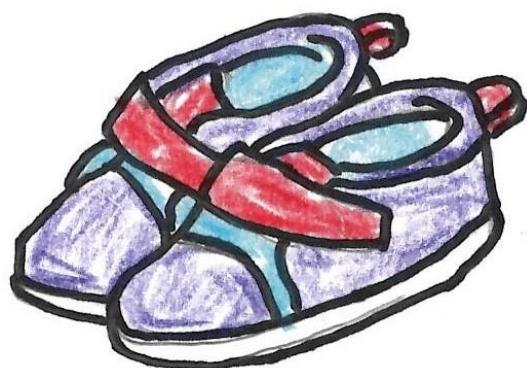
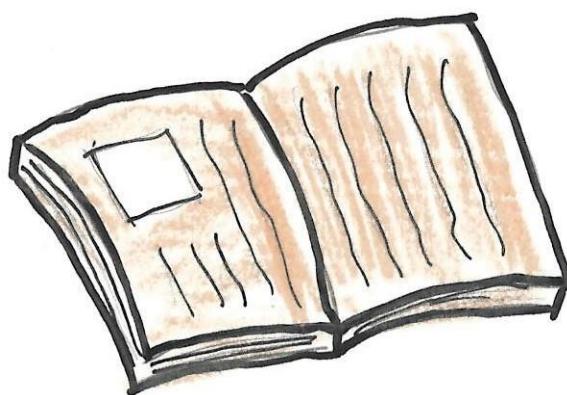
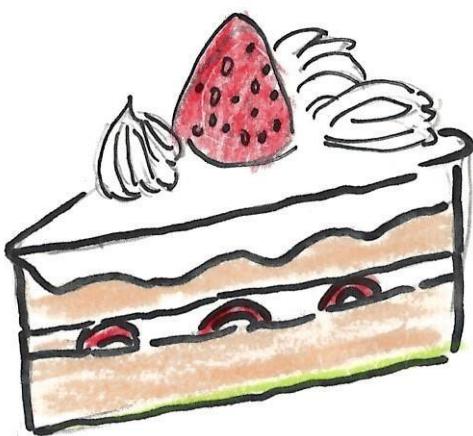
「お話を作ろう」の絵

[一覧に戻る](#)



「買い物をしよう」の絵カード

[一覧に戻る](#)



「料理をしよう」の写真

[一覧に戻る](#)



